

第4章 みどり率調査

4-1 調査の方法

1) みどり率の定義

みどり率は、ある地域に占める樹林地、草地、宅地内の緑（屋上緑地を含む）、公園、街路樹、河川、水路等の面積が、その地域全体の面積に占める割合をいう。緑被率に「公園内の緑で覆われていない面積の割合」と「河川等の水面が占める割合」を加えたものがみどり率となる。

緑 被 率	↑	樹林地が占める割合	み ど り 率	↑
		草地が占める割合		
		農地が占める割合		
		宅地等の緑が占める割合		
		道路の緑が占める割合		
		公園が占める割合 (公園内の緑で覆われている面積の割合)		
	↓	(公園内の緑で覆われていない面積の割合)		↓
		河川等の水面が占める割合		

「緑の東京計画」(平成12年12月、東京都)より

図 4-1 緑被率とみどり率の関係

2) みどり率の集計

みどり率集計に用いる公園面積は、令和6年4月1日現在供用開始している管理面積とした。

また河川等の水面面積は、令和3年度東京都土地利用現況データの「水面」ポリゴンを抽出し、緑被データを重ね合わせたものとする。そのため、区全体の面積は図形面積を採用しており、令和6年度調査では2,344haとなった。

4-2 みどり率の現況

- 区全体のみどり率は21.5%であった。
- みどり率が最も高い地区は八潮地区の31.6%であった。
- みどり率が最も低い地区は荏原地区の12.3%であった。

地区別のみどり率を表4-1、みどり分布図を図4-4に示す。

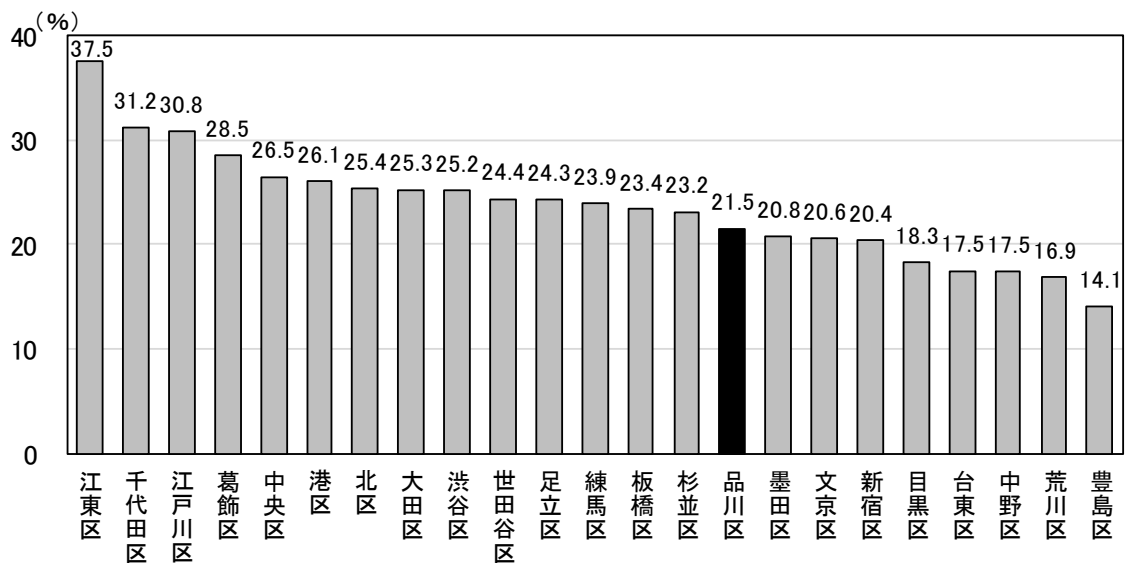
表 4-1 地区別みどり率の状況

地区名	単位	樹木被覆地 (公園以外)	草地 (公園以外)	屋上緑地 (公園以外)	水面 (公園以外)	公園	みどり面積 /みどり率	区域面積
品川地区	面積(ha)	45.8	7.8	4.2	32.3	16.3	106.5	454.0
	割合(%)	10.1	1.7	0.9	7.1	3.6	23.5	100.0
大崎地区	面積(ha)	41.7	5.1	3.8	4.5	3.7	58.8	333.3
	割合(%)	12.5	1.5	1.1	1.4	1.1	17.6	100.0
大井地区	面積(ha)	43.7	10.1	2.9	26.8	27.3	110.8	492.2
	割合(%)	8.9	2.1	0.6	5.4	5.6	22.5	100.0
荏原地区	面積(ha)	43.2	5.7	2.4	0.0	17.8	69.1	560.9
	割合(%)	7.7	1.0	0.4	0.0	3.2	12.3	100.0
八潮地区	面積(ha)	32.3	26.1	1.4	26.7	72.6	159.1	503.7
	割合(%)	6.4	5.2	0.3	5.3	14.4	31.6	100.0
区全体	面積(ha)	206.8	54.9	14.8	90.3	137.7	504.4	2,344.0
	割合(%)	8.8	2.3	0.6	3.9	5.9	21.5	100.0

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

参考資料として23区のみどり率を図4-2に示す。

なお、みどり率調査は令和6年時点では全ての区で行っているものではない。またみどり率の考え方が各区によって異なる場合もあり、比較は慎重に行う必要がある。



R04 H30 H30 H30 H29 R03 R05 H30 R04 R03 R05 R03 R01 R04 R06 H30 R05 R02 R05 H30 H28 H29 R03

※各区のみどり率は区ホームページ、その他資料調査による

図 4-2 23 区のみどり率

4-3 みどり率の経年変化

- 令和元年度調査と令和6年度調査のみどり率の変化は、9.4ha、0.4ポイントの増加であった。

みどり率の変化を表4-2、図4-3に示す。

公園面積は0.8haの増加であった。また、公園以外の樹木被覆地の増加が6.9haと大きく、0.3ポイントの増加であった。第3章において樹木被覆地の増加が7.6haであるため、みどり率の増加は公園外における要因が大きいとわかる。

表 4-2 みどり率の経年変化

項 目	平成16年度		平成21年度		平成26年度		令和元年度		令和6年度		変化	
	面積 (ha)	面積率 (%)	面積 (ha)	面積率 (%)	面積 (ha)	面積率 (%)	面積 (ha)	面積率 (%)	面積 (ha)	面積率 (%)	面積 (ha)	ポイント 差
樹木被覆地 (公園以外)	203.6	8.7	228.9	9.8	210.6	9.0	199.8	8.5	206.8	8.8	6.9	0.3
草地 (公園以外)	34.7	1.5	42.1	1.8	53.4	2.3	54.7	2.3	54.9	2.3	0.2	0.0
屋上緑地 (公園以外)	2.4	0.1	7.1	0.3	12.8	0.5	13.3	0.6	14.8	0.6	1.4	0.1
水面 (公園以外)	91.0	3.9	91.0	3.9	90.6	3.9	90.3	3.9	90.3	3.9	0.0	0.0
公園	126.7	5.4	128.0	5.5	135.5	5.8	136.9	5.8	137.7	5.9	0.8	0.0
みどり面積合計 /みどり率	458.4	19.6	497.1	21.2	502.9	21.4	495.0	21.1	504.4	21.5	9.4	0.4
区域面積	2,344.0	—	2,344.0	—	2,344.6	—	2,344.7	—	2,344.0	—	—	—

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

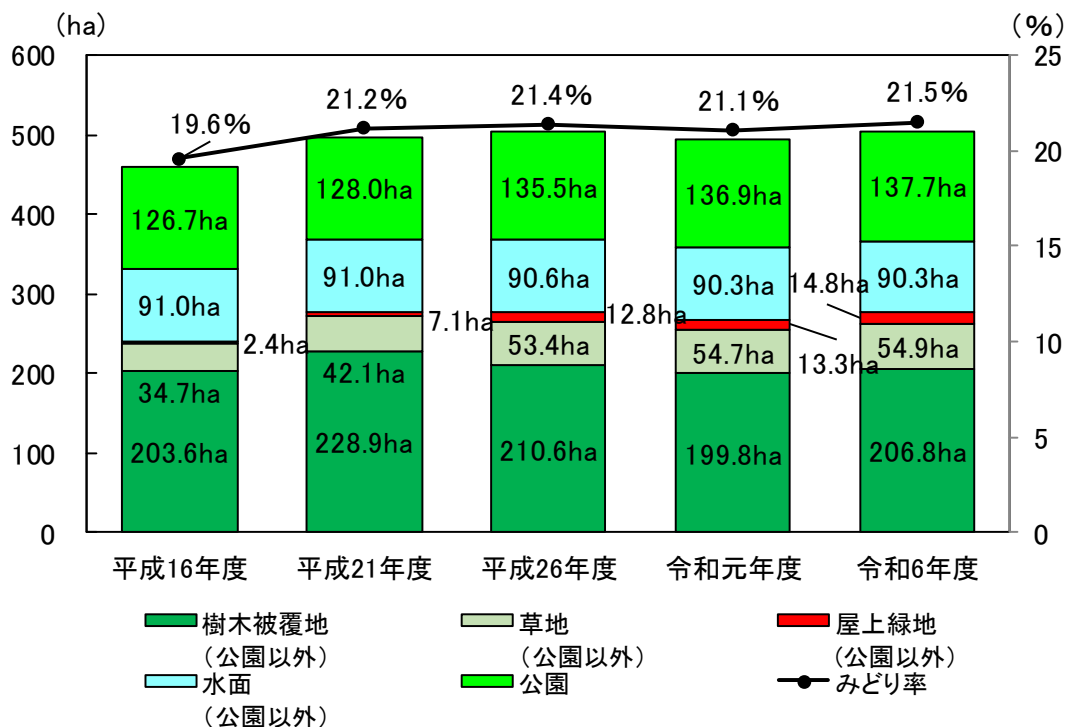


図 4-3 みどり率の変化状況



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT 利許第 06-K109-5 号)

図 4-4 みどり分布図

第5章 接道部調査

5-1 調査の方法

区全域の国道、都道、区道、私道について、現地にて接道部状況を調査した。接道部の区分は表 5-1 のとおりとした。

緑化可能性が高い接道部とは、現在は接道部緑化が行われていないが、生垣や植込み等の接道部緑化を行う空地（幅 50 cm以上とした）、または塀やフェンスを取り壊すことで接道部緑化整備が可能な場合とした。

緑化可能性が低い接道部とは、駐車場等の出入り口に利用、または建物や擁壁等を取り壊さないと接道部緑化整備ができない場合とした。

表 5-1 接道部の区分

区分		内容
接道部緑化	生垣	樹木の列状植栽で樹木間に隙間のない植栽とする。 生垣高さは 90 cm以上（90 cm未満は植込・植樹帯）とする。 生垣前面にフェンス等がある場合、外観上生垣に見えるものは生垣とする。
	高木・植込・植樹帯	生垣、緑化フェンス以外の連続性のある植栽とする。 植栽高さは 30 cm以上とする。 植込等の前面にフェンス等があっても、植込み・植樹帯がフェンス越しに見えれば高木・植込等とする。 高木の緑化範囲は葉張の幅とする。
	塀上の緑化	塀の上から塀内の植込み等による緑化が見えるものとする。 塀の高さの基準は 1m 以上とする。
	緑化フェンス	フェンスにツル性植物による緑化が行われているものとする。 塀とフェンスの複合の場合、塀の高さが 1m 以上は塀とし、1m 未満はフェンスとする。
	その他緑化	塀、擁壁の接道面が緑化されており緑の面を形成しているものとする。 緑化された法面も含む。 上記以外で接道する敷地が樹林など緑を主体とした土地利用（緑地）で、接道部に塀等の設置がないものとする。
	公園・緑地等	公園・緑地の接道部のすべてとする。
高い接道部緑化可能性が	空地	接道部緑化は行われていないが、緑化スペースがある場合で、緑化スペースの範囲は敷地境界から建物までの距離を 50 cm以上とする。
	塀・フェンス	塀、フェンス等が設置されており、敷地境界から建物までの距離が 50 cm以上ある場合とする。 塀の高さの基準は 1m 以上とする。 塀の上から樹木等の緑化が見える場合は（塀上の緑化）とする。
低い接道部緑化可能性が	緑化可能性無し	敷地境界から建物までの距離が 50 cm未満の場合とする。 2m 以上が車輛等の出入り口として利用されている場合とする。 高さ 3m 以上の擁壁（敷地内で 3m 未満の部分があれば擁壁上の状況を判断する）とする。 高さ 3m 未満の擁壁は擁壁上の状況によって判断する。

接道部緑化の事例を図 5-1、緑化可能性が高い事例を図 5-2、緑化可能性が低い事例を図 5-3 に示す。



生垣



植え込み



塀上の緑化



その他緑化



公園・緑地等

図 5-1 接道部緑化の事例



空地



塀・フェンス

図 5-2 緑化可能性が高い接道部の事例



出入口により緑化可能性が低い



建物が有り緑化可能性が低い

図 5-3 緑化可能性が低い接道部の事例

5-2 区全体の接道部現況

1) 区全体の接道部状況

- 区全体の接道部延長 967.1 kmのうち、接道部緑化は 268.2 km (27.7%)、緑化の可能性が高い接道部が 218.1 km (22.5%)、緑化の可能性が低い接道部が 480.8 km (49.7%) であった。

※調査対象とした接道部は、高架道路を除く区内全域の道路（私道、通路を含む）の道路以外の敷地と接する道路縁とした。

※本調査の延長は、調査対象となった接道部延長であり、道路管理延長とは異なる。

区全域の接道部緑化の状況を表 5-2、図 5-4、接道部緑化状況図を図 5-6 に示す。

接道部緑化の内訳は「生垣」(24.2 km, 2.5%)、「植込み」(180.7 km, 18.7%)、「塀上の緑化」(26.2km, 2.7%)、「緑化フェンス」(0.9 km, 0.1%)、「その他緑化」(9.0 km, 0.9%)、「公園・緑地」(27.2 km, 2.8%) であった。

緑化可能性が高い接道部の内訳は「空地」(120.0 km, 12.4%)、「塀・フェンス」(98.1 km, 10.1%) であった。

緑化可能性が低い接道部は 480.8 kmで、接道部全体の約半数の 49.7% であった。

表 5-2 接道部の状況

区分		延長(km)	割合(%)
接道部緑化	生垣	24.2	2.5
	植込み	180.7	18.7
	塀上の緑化	26.2	2.7
	緑化フェンス	0.9	0.1
	その他緑化	9.0	0.9
	公園・緑地	27.2	2.8
	計	268.2	27.7
緑化可能性が高い	空地	120.0	12.4
	塀・フェンス	98.1	10.1
	計	218.1	22.5
緑化可能性が低い		480.8	49.7
合計		967.1	100.0

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

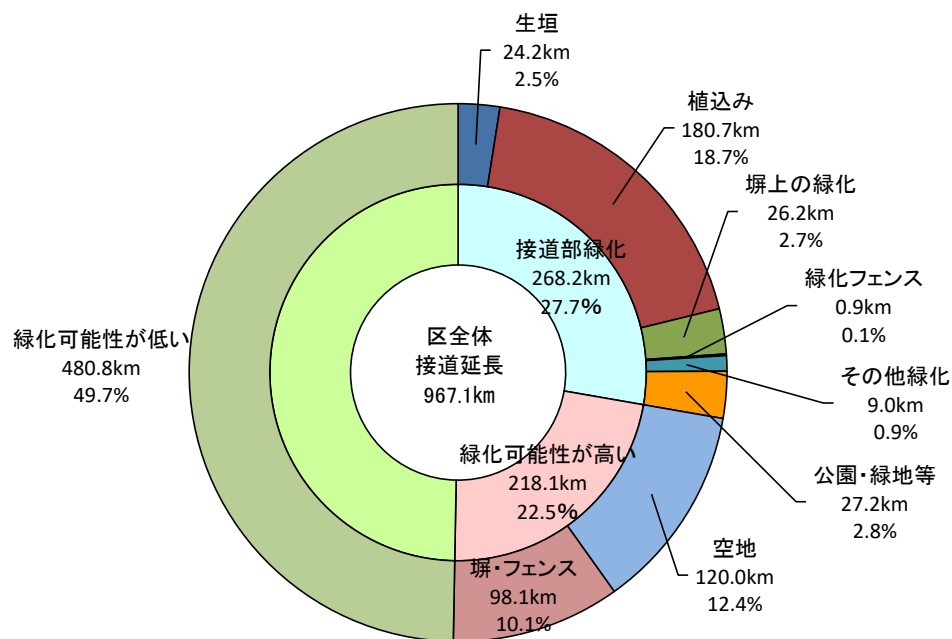


図 5-4 接道部の状況の構成比

2) 土地利用別の接道部状況

- 接道部緑化率が最も高いのは学校の 58.0%であった。
- 緑化可能性が高い接道部については、民間施設のその他（未利用地等）が 41.1%で最も高かった。
- 緑化可能性が低い接道部については、商業施設が 65.4%で最も高かった。

民間施設の接道部緑化の状況の構成比を図 5-5、土地利用別の接道部の状況を表 5-3 に示す。

接道部延長 967.1 kmのうち 820.0 km(約 8 割)を占める民間施設のうち、接道部緑化率が最も高い土地利用は集合住宅の 34.3%、次いで工業施設の 32.3%、未利用地等のその他の 26.8%、独立住宅の 20.2%であり、商業施設の 17.8%が最も低い。

接道部緑化では「植込み」の占める割合が各施設で最も高い。これを施設別にみると工業施設が 27.3%、次いで集合住宅 25.7%、未利用地等のその他 22.6%であった。一方、独立住宅は 12.3%にとどまっており、民間施設の中では最も割合が低い。

民間施設での緑化の可能性が高い接道部は、未利用地等のその他が 41.1%、次いで工業施設が 26.6%、独立住宅が 24.7%であった。

緑化の可能性が低い接道部は、商業施設が 65.4%、次いで独立住宅 55.1%、集合住宅 43.6%であった。

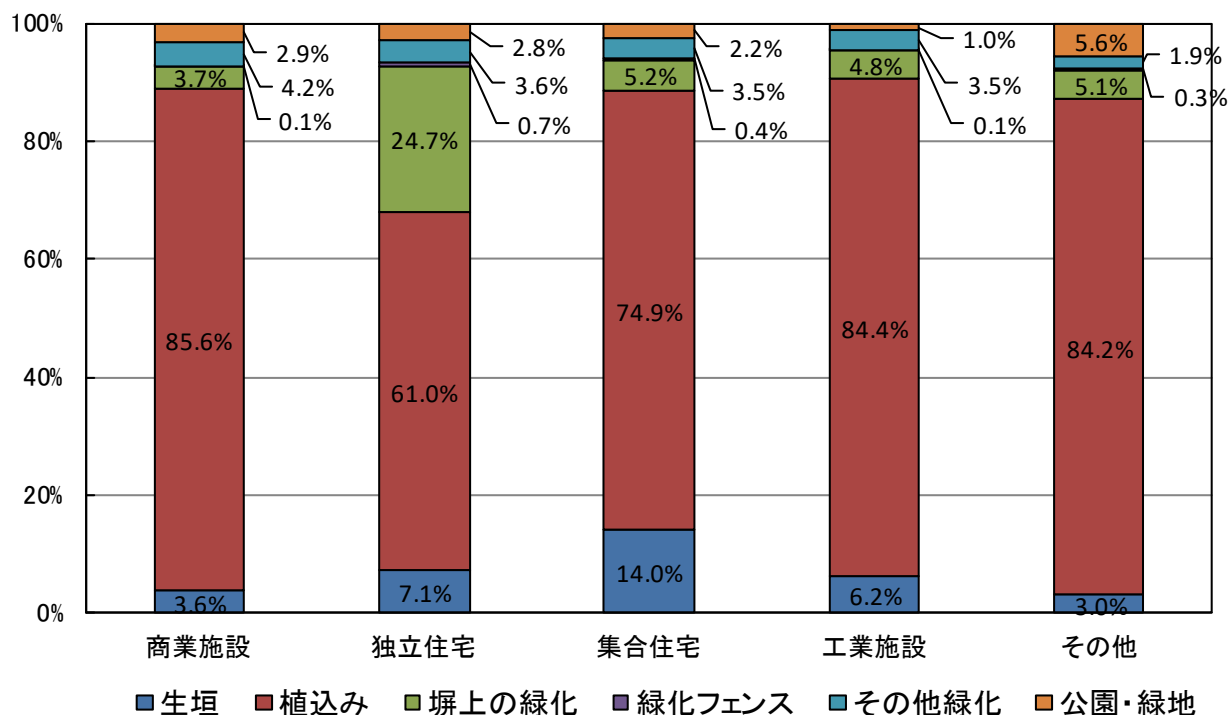


図 5-5 民間施設の接道部緑化の状況の構成比

表 5-3 土地利用別の接道部の状況

土地利用		単位	接道部緑化					
			生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地
学校		延長(km)	2.9	10.2	0.9	0.0	0.2	0.2
		割合(%)	11.9	41.1	3.6	0.0	0.6	0.7
供給処理施設		延長(km)	0.6	1.9	0.2	0.0	0.1	0.8
		割合(%)	8.4	28.1	2.6	0.0	1.6	11.2
公園、道路、鉄道等		延長(km)	1.0	12.5	0.6	0.1	1.1	17.3
		割合(%)	1.4	16.2	0.8	0.1	1.4	22.5
その他の公共公益委施設		延長(km)	0.8	6.8	0.7	0.0	0.3	3.9
		割合(%)	3.0	25.7	2.7	0.0	1.2	14.7
社寺境内地		延長(km)	0.3	2.5	1.2	0.0	0.0	0.1
		割合(%)	2.3	20.3	9.6	0.0	0.4	0.6
民間施設	商業施設	延長(km)	1.3	29.5	1.3	0.0	1.4	1.0
		割合(%)	0.6	15.3	0.7	0.0	0.7	0.5
	独立住宅	延長(km)	4.7	40.2	16.2	0.5	2.4	1.8
		割合(%)	1.4	12.3	5.0	0.2	0.7	0.6
	集合住宅	延長(km)	11.6	62.3	4.3	0.3	2.9	1.8
		割合(%)	4.8	25.7	1.8	0.1	1.2	0.7
	工業施設	延長(km)	0.8	11.2	0.6	0.0	0.5	0.1
		割合(%)	2.0	27.3	1.5	0.0	1.1	0.3
	その他	延長(km)	0.1	3.7	0.2	0.0	0.1	0.2
		割合(%)	0.8	22.6	1.4	0.1	0.5	1.5
	計	延長(km)	18.5	146.9	22.7	0.8	7.2	5.0
		割合(%)	2.3	17.9	2.8	0.1	0.9	0.6

土地利用		単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長
			空地	塀・フェンス	計		
学校		延長(km)	1.6	2.9	4.5	5.9	24.7
		割合(%)	6.5	11.5	18.0	23.9	100.0
供給処理施設		延長(km)	1.0	1.3	2.3	1.0	6.8
		割合(%)	15.1	18.8	33.9	14.1	100.0
公園、道路、鉄道等		延長(km)	7.3	12.5	19.7	24.6	76.9
		割合(%)	9.4	16.2	25.6	32.0	100.0
その他の公共公益委施設		延長(km)	2.0	2.0	4.0	9.9	26.5
		割合(%)	7.7	7.6	15.2	37.5	100.0
社寺境内地		延長(km)	1.0	2.4	3.3	4.8	12.2
		割合(%)	7.8	19.4	27.2	39.5	100.0
民間施設	商業施設	延長(km)	24.5	7.9	32.5	126.5	193.4
		割合(%)	12.7	4.1	16.8	65.4	100.0
	独立住宅	延長(km)	42.5	38.2	80.7	180.0	326.5
		割合(%)	13.0	11.7	24.7	55.1	100.0
	集合住宅	延長(km)	30.9	22.6	53.5	105.9	242.7
		割合(%)	12.7	9.3	22.0	43.6	100.0
	工業施設	延長(km)	4.7	6.2	10.9	16.8	40.9
		割合(%)	11.4	15.2	26.6	41.1	100.0
	その他	延長(km)	4.5	2.3	6.8	5.3	16.5
		割合(%)	27.3	13.8	41.1	32.2	100.0
	計	延長(km)	107.1	77.2	184.3	434.6	820.0
		割合(%)	13.1	9.4	22.5	53.0	100.0

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

3) 区全体の接道部状況変化

区全体の接道部状況の変化を表 5-4、土地利用別の接道部状況の変化を表 5-5 に示す。

接道部延長は、令和元年度調査で 955.2 km、令和 6 年度調査では 967.1 km であった。それぞれの延長では、接道部緑化が 12.6 km 短縮、緑化の可能性が高い接道部は 13.2 km 延伸、緑化の可能性が低い接道部は 11.4 km 延伸で、接道部緑化のみが短縮した。

接道部緑化の内訳では、「塀上の緑化」の -5.8km (-0.6 ポイント) を筆頭に、すべての項目で短縮、減少となった。

また、緑化の可能性が高い接道部では「空地」が 29.0 km (2.9 ポイント) 延伸、増加した反面、「塀・フェンス」が -15.8 km (-1.8 ポイント) 短縮、減少となった。

土地利用別の接道部延長は、商業施設が 29.9 km、独立住宅が 21.2 km 延伸した。商業施設では、接道部緑化は 1.2 km の延伸にとどまっている一方で、緑化の可能性が低い接道部は 22.6 km、緑化可能性が高い接道部の「空地」が 18.3 km と大きく延伸していることから、緑化自体は後退している。また、独立住宅では、接道部を駐車場利用する建て方が増加しており、緑化の可能性が低い接道部の延伸につながっていると考えられる。

表 5-4 区全体の接道部状況の変化

区分		令和元年度調査		令和6年度調査		増減	
		延長(km)	割合(%)	延長(km)	割合(%)	延長(km)	ポイント差
接道部緑化	生垣	24.3	2.6	24.2	2.5	-0.2	-0.1
	植込み	186.4	19.5	180.7	18.7	-5.7	-0.8
	塀上の緑化	32.0	3.4	26.2	2.7	-5.8	-0.6
	緑化フェンス	1.1	0.1	0.9	0.1	-0.2	0.0
	その他緑化	9.1	1.0	9.0	0.9	-0.1	0.0
	公園・緑地	27.9	2.9	27.2	2.8	-0.6	-0.1
	計	280.8	29.4	268.2	27.7	-12.6	-1.7
性緑が化高可能	空地	91.0	9.5	120.0	12.4	29.0	2.9
	塀・フェンス	113.9	11.9	98.1	10.1	-15.8	-1.8
	計	204.9	21.5	218.1	22.5	13.2	1.1
緑化可能性が低い		469.4	49.2	480.8	49.7	11.4	0.6
合計		955.2	100.0	967.1	100.0	12.0	-

※小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

表 5-5 土地利用別の接道部状況の変化

土地利用		単位	接道部緑化						
			生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	計
学校	延長(km)	0.2	-0.2	0.1	0.0	-0.2	0.1	0.1	
	割合(%)	-0.3	-4.9	0.3	0.0	-1.0	0.6	-5.4	
供給処理施設	延長(km)	-0.2	-0.6	0.0	0.0	0.0	0.2	-0.5	
	割合(%)	-3.2	-10.0	-0.2	0.0	0.1	3.1	-10.1	
公園、道路、鉄道等	延長(km)	0.5	3.4	0.3	0.0	0.8	-7.1	-2.2	
	割合(%)	0.4	0.5	0.3	-0.1	1.0	-19.7	-17.7	
その他の公共公益施設	延長(km)	0.1	1.0	-0.1	0.0	-0.4	3.8	4.3	
	割合(%)	-1.3	-8.9	-2.0	-0.3	-2.9	14.0	-1.5	
社寺境内地	延長(km)	0.0	0.4	-0.4	0.0	0.0	0.0	-0.1	
	割合(%)	-0.3	-2.4	-7.6	0.0	0.0	-0.5	-10.9	
民間施設	商業施設	延長(km)	0.1	0.4	0.0	0.0	0.1	0.8	1.2
		割合(%)	-0.1	-2.6	-0.1	0.0	-0.1	0.4	-2.5
	独立住宅	延長(km)	0.3	-3.4	-3.8	-0.1	0.0	1.0	-5.9
		割合(%)	0.0	-2.0	-1.6	0.0	0.0	0.3	-3.3
	集合住宅	延長(km)	-0.2	-0.2	-1.3	0.0	0.1	1.3	-0.3
		割合(%)	0.1	1.1	-0.4	0.0	0.1	0.5	1.4
	工業施設	延長(km)	-0.1	-2.2	-0.1	0.0	0.1	0.0	-2.3
		割合(%)	0.4	4.5	0.2	0.0	0.6	0.1	5.7
	その他	延長(km)	-0.8	-4.2	-0.5	0.0	-0.7	-0.7	-6.9
		割合(%)	-0.7	9.5	0.2	0.1	-0.8	-0.1	8.2
	計	延長(km)	-0.8	-9.6	-5.7	-0.1	-0.4	2.4	-14.2
		割合(%)	0.0	-0.7	-0.6	0.0	0.0	0.3	-1.0
合計		延長(km)	-0.2	-5.7	-5.8	-0.2	-0.1	-0.6	-12.6
		割合(%)	0.0	-0.8	-0.6	0.0	0.0	-0.1	-1.7

土地利用		単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	合計
			空地	塀・フェンス	計		
学校	延長(km)	-0.4	1.0	0.6	1.6	2.2	
	割合(%)	-2.6	3.3	0.7	4.7	0.0	
供給処理施設	延長(km)	0.0	0.8	0.8	0.0	0.2	
	割合(%)	-0.7	11.3	10.5	-0.5	0.0	
公園、道路、鉄道等	延長(km)	-1.5	9.4	8.0	13.2	19.0	
	割合(%)	-5.6	10.9	5.3	12.3	0.0	
その他の公共公益施設	延長(km)	0.7	0.5	1.2	4.1	9.6	
	割合(%)	-0.1	-1.2	-1.3	2.9	0.0	
社寺境内地	延長(km)	-0.9	1.7	0.8	2.1	2.9	
	割合(%)	-11.7	12.4	0.6	10.2	0.0	
民間施設	商業施設	延長(km)	18.3	-12.2	6.1	22.6	29.9
		割合(%)	8.9	-8.2	0.7	1.9	0.0
	独立住宅	延長(km)	11.5	-2.1	9.4	17.7	21.2
		割合(%)	2.8	-1.5	1.4	2.0	0.0
	集合住宅	延長(km)	9.6	-8.5	1.1	-11.9	-11.2
		割合(%)	4.3	-2.9	1.4	-2.8	0.0
	工業施設	延長(km)	-1.9	0.8	-1.2	-14.1	-17.5
		割合(%)	0.1	5.9	6.0	-11.7	0.0
	その他	延長(km)	-6.4	-7.2	-13.6	-23.9	-44.4
		割合(%)	9.4	-1.8	7.7	-15.9	0.0
	計	延長(km)	31.0	-29.2	1.8	-9.6	-22.0
		割合(%)	4.0	-3.2	0.8	0.2	0.0
合計		延長(km)	29.0	-15.8	13.2	11.4	12.0
		割合(%)	2.9	-1.8	1.1	0.6	0.0

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。（承認番号）（MMT 利許第 06-K109-5 号）

図 5-6 接道部緑化状況図

5-3 地区別の接道部状況

1) 地区別の接道部状況

- 接道部緑化率が最も高いのは八潮地区の 62.9%であった。
- 緑化の可能性が高い接道部の割合が最も高いのは大崎地区で 25.4%であった。
- 緑化の可能性が低い接道部の割合が最も高いのは荏原地区で 56.1%であった。

地区別の接道部状況を図 5-7、地区別の接道部状況の構成比を図 5-8 に示す。

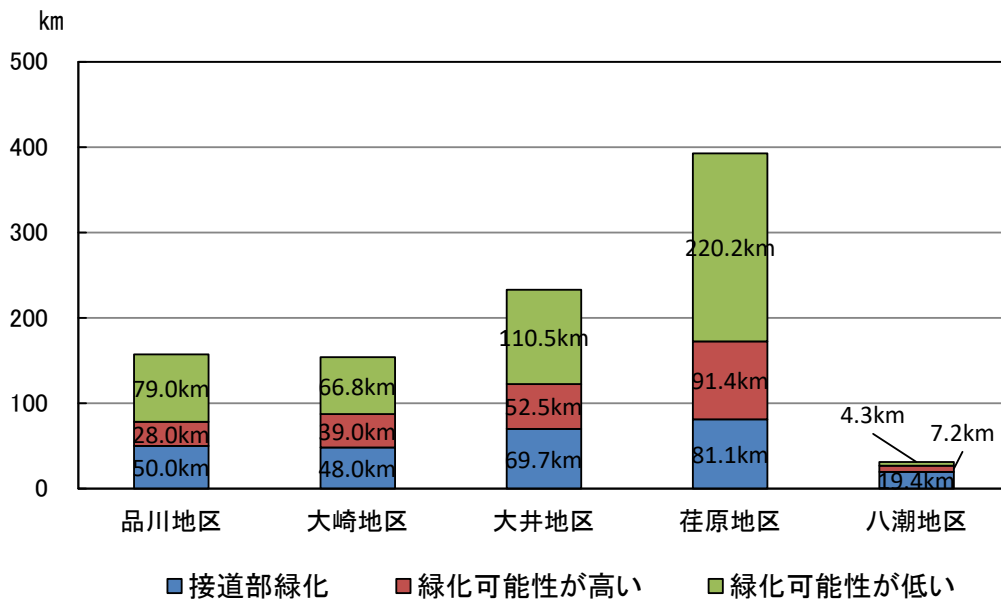


図 5-7 地区別の接道部状況

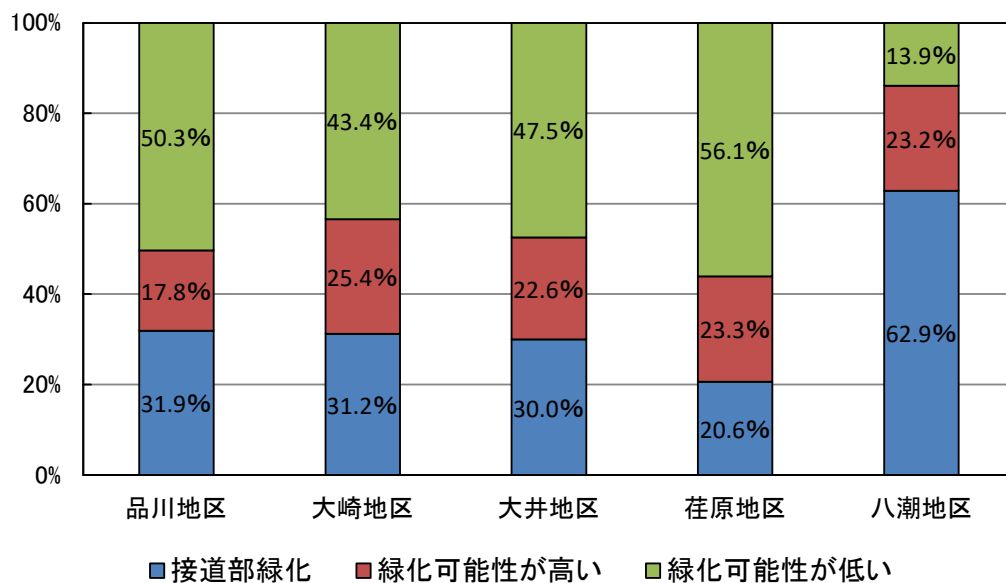


図 5-8 地区別の接道部状況の構成比

① 品川地区

品川地区の接道部延長は 157.0 kmで、区全体の接道部延長の 16.2%である。

接道部緑化延長は 50.0 km、接道部緑化率は 31.9%で 5 地区の中では 2 番目に高い。

接道部緑化のうち「植込み」が 38.4 km、接道部全体の 24.5%、次いで「公園・緑地」が 3.7 km、2.4%、「塀上の緑化」が 3.4 km、2.1%であり、接道部緑化の約 8 割が「植込み」であった。

緑化の可能性が高い接道部の延長割合は 17.8%で 5 地区の中で最も低く、「空地」が 12.4 km、「塀・フェンス」が 15.5 kmであった。

緑化の可能性が低い接道部の延長は 79.0 km、接道部全体の 50.3%を占め、5 地区の中では 2 番目に高い。

表 5-6 品川地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化						
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	計
品川地区	延長(km)	3.3	38.4	3.4	0.1	1.1	3.7	50.0
	割合(%)	2.1	24.5	2.1	0.1	0.7	2.4	31.9

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
品川地区	延長(km)	12.4	15.5	28.0	79.0	157.0	16.2%
	割合(%)	7.9	9.9	17.8	50.3	100.0	

※小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

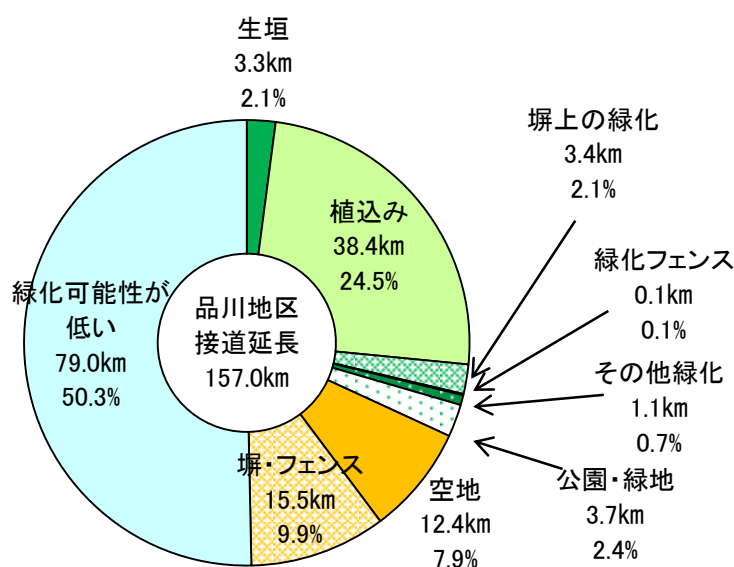


図 5-9 品川地区の接道部状況の構成比

② 大崎地区

大崎地区の接道部延長は 153.8 kmで、区全体の接道部延長の 15.9%である。

接道部緑化延長は 48.0 km、接道部緑化率は 31.2%で 5 地区の中では 3 番目に高い。

接道部緑化のうち「植込み」が 36.6 km、接道部全体の 23.8%、次いで「塀上の緑化」が 4.2 km、2.7%、「生垣」が 3.7 km、2.4%であった。

緑化の可能性が高い接道部の延長割合は、接道部全体の 25.4%で、5 地区の中では最も高い。うち「空地」が 23.2 km、「塀・フェンス」が 15.9 kmであった。

緑化の可能性が低い接道部の延長は、66.8 km、接道部全体の 43.4%で、5 地区の中では 2 番目に低い。

表 5-7 大崎地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化						
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	計
大崎地区	延長(km)	3.7	36.6	4.2	0.1	1.6	1.8	48.0
	割合(%)	2.4	23.8	2.7	0.1	1.1	1.2	31.2

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
大崎地区	延長(km)	23.2	15.9	39.0	66.8	153.8	15.9%
	割合(%)	15.1	10.3	25.4	43.4	100.0	

※小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

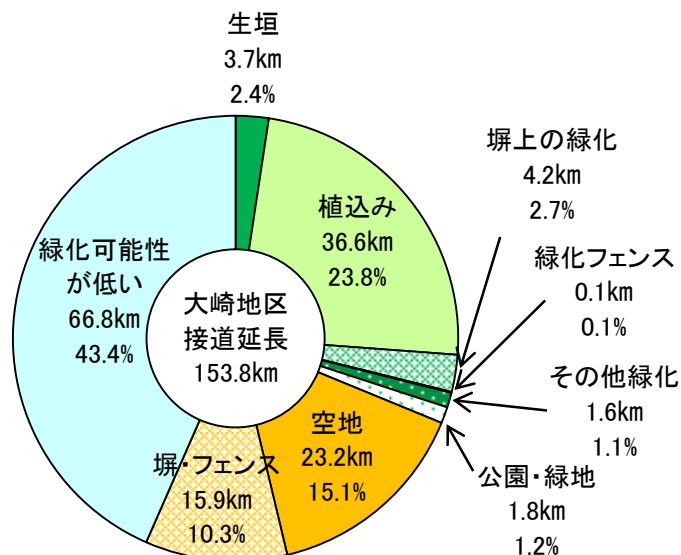


図 5-10 大崎地区の接道部状況の構成比

③ 大井地区

大井地区の接道部延長は 232.8 kmで、区全体の接道部延長の 24.1%である。

接道部緑化延長は 69.7 km、接道部緑化率は 30.0%で、5 地区の中では 2 番目に低い。

接道部緑化のうち「植込み」が 44.8 km、接道部全体の 19.2%、次いで「生垣」が 7.8 km、3.3%、「公園・緑地」が 7.7 km、3.3%であった。「生垣」の占める割合は 5 地区の中では最も高い。

緑化の可能性が高い接道部の延長は 52.5 km、接道部全体の 22.6%で、空地が 29.2 km、塀・フェンスが 23.3 kmであった。

緑化の可能性が低い接道部の延長は 110.5 km、接道部全体の 47.5%であり、5 地区の中では 3 番目に高い。

表 5-8 大井地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化						
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	計
大井地区	延長(km)	7.8	44.8	6.6	0.2	2.8	7.7	69.7
	割合(%)	3.3	19.2	2.8	0.1	1.2	3.3	30.0

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
大井地区	延長(km)	29.2	23.3	52.5	110.5	232.8	24.1%
	割合(%)	12.5	10.0	22.6	47.5	100.0	

※小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

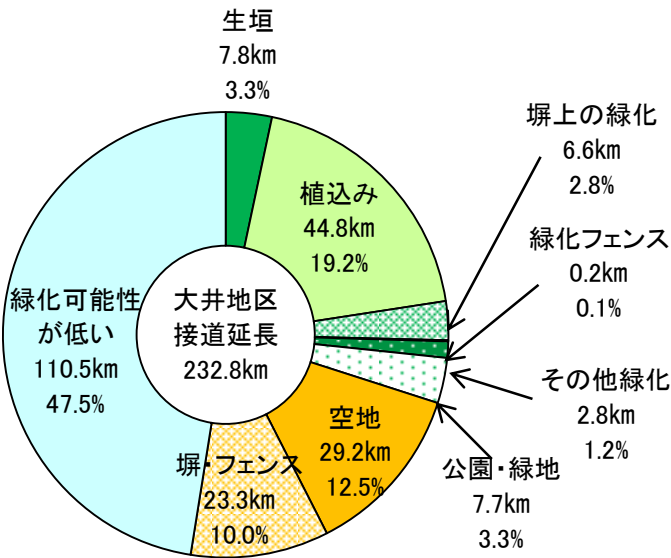


図 5-11 大井地区の接道部状況の構成比

④ 荏原地区

荏原地区の接道部延長は 392.6 kmで、区全体の接道部延長の 40.6%である。

接道部緑化延長は 81.1 km、接道部緑化率は 20.6%で、5 地区の中では最も低い。

接道部緑化のうち「植込み」が 50.6 km、接道部全体の 12.9%、次いで「塀上の緑化」が 12.0 km、3.1%、「生垣」が 9.0 km、2.3%であった。

緑化の可能性が高い接道部の延長は 91.4 km、接道部全体の 23.3%で 5 地区中では 2 番目に高い。うち「空地」は 54.0 km、「塀・フェンス」は 37.4 kmであった

緑化の可能性が低い接道部の延長は 220.2 km、接道部全体の 56.1%を占め、5 地区の中で最も高い。

表 5-9 荏原地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化					
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地
荏原地区	延長(km)	9.0	50.6	12.0	0.5	2.9	6.1
	割合(%)	2.3	12.9	3.1	0.1	0.7	1.6

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
荏原地区	延長(km)	54.0	37.4	91.4	220.2	392.6	40.6%
	割合(%)	13.8	9.5	23.3	56.1	100.0	

※小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

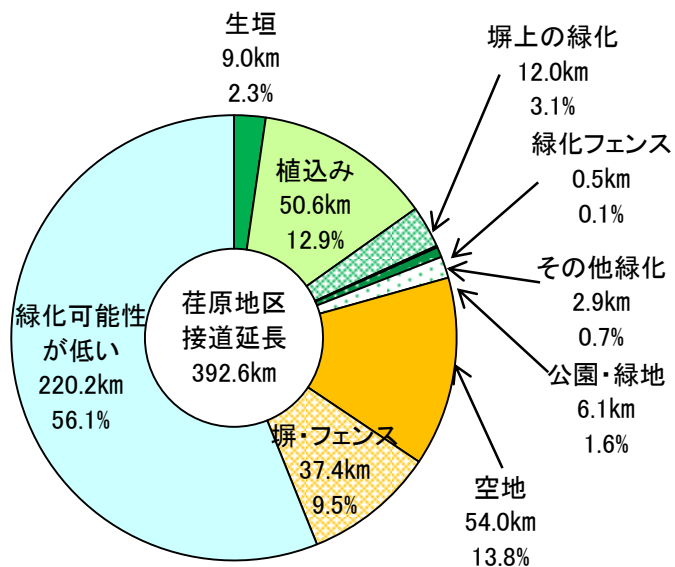


図 5-12 荏原地区の接道部状況の構成比

⑤ 八潮地区

八潮地区の接道部延長は 30.9 kmで、区全体の接道部延長の 3.2%と他地区に比べ極端に短い。

接道部緑化延長は 19.4 km、接道部緑化率は 62.9%で5地区の中では最も高い。

接道部緑化のうち、「植込み」が 10.4 km、接道部全体の 33.6%、次いで「公園・緑地」が 7.9 km、25.6%であった。

緑化の可能性が高い接道部の延長は 7.2 km、接道部全体の 23.2%であった。「塀・フェンス」が 6.0 km、「空地」が 1.2 kmであった。

緑化の可能性が低い接道部の延長は 4.3 km、接道部全体の 13.9%であった。

表 5-10 八潮地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化					
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地
八潮地区	延長(km)	0.5	10.4	0.2	0.0	0.5	7.9
	割合(%)	1.5	33.6	0.5	0.0	1.7	25.6

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
八潮地区	延長(km)	1.2	6.0	7.2	4.3	30.9	3.2%
	割合(%)	3.7	19.4	23.2	13.9	100.0	

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

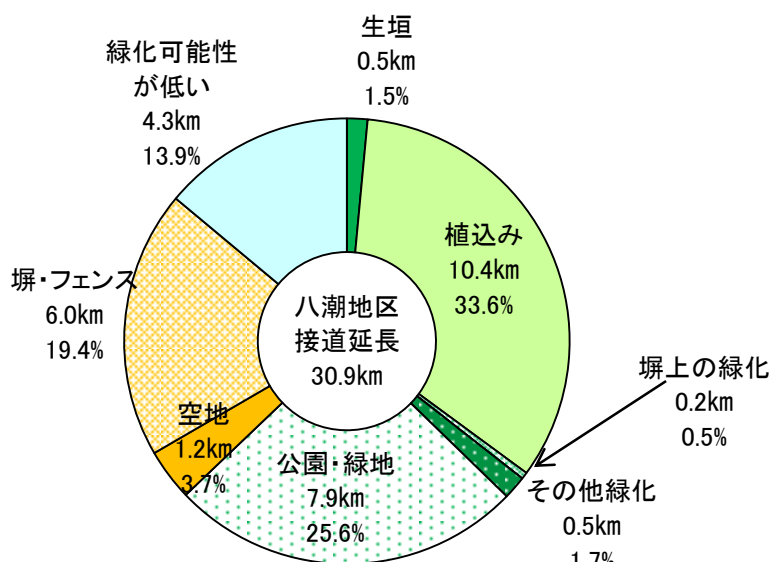


図 5-13 八潮地区の接道部状況の構成比

2) 地区別の接道部状況変化

地区別の接道部状況の変化を表 5-11、5-12 に示す。

接道部延長は荏原地区のみが延伸し、それ以外の地区は短縮となった。

接道部緑化延長は、すべての地区で短縮した。最も延長が短縮した地区は大井地区の 3.8 km で、次いで品川地区が 2.9 km、荏原地区が 2.2 km の短縮となった。接道部緑化延長の短縮は、特に「塀上の緑化」、「植込み」の減少、短縮が大きく、建替えや再開発に伴う緑化消失が影響している。

緑化の可能性が高い接道部の延長では、品川地区、大井地区、荏原地区は増加したが、大崎地区と八潮地区では減少した。

緑化の可能性が低い接道部の延長では、品川地区以外のすべての地区で増加しており、なかでも荏原地区は 9.7 km も延伸している。

表 5-11 地区別の接道部状況の変化（1）

単位: km

地区	調査年	接道部緑化延長						計
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	
品川地区	令和元年	2.6	41.4	4.4	0.1	0.6	3.9	52.9
	令和6年	3.3	38.4	3.4	0.1	1.1	3.7	50.0
	変化	0.7	-3.0	-1.0	0.1	0.5	-0.1	-2.9
大崎地区	令和元年	3.8	37.3	5.2	0.1	2.1	1.7	50.1
	令和6年	3.7	36.6	4.2	0.1	1.6	1.8	48.0
	変化	-0.1	-0.7	-1.0	0.0	-0.5	0.1	-2.1
大井地区	令和元年	8.2	46.1	8.5	0.3	2.6	7.8	73.5
	令和6年	7.8	44.8	6.6	0.2	2.8	7.7	69.7
	変化	-0.5	-1.3	-1.9	-0.1	0.2	-0.1	-3.8
荏原地区	令和元年	9.1	51.3	13.7	0.7	2.4	6.1	83.2
	令和6年	9.0	50.6	12.0	0.5	2.9	6.1	81.1
	変化	-0.2	-0.7	-1.7	-0.2	0.5	0.0	-2.2
八潮地区	令和元年	0.6	10.4	0.2	0.0	1.5	8.5	21.1
	令和6年	0.5	10.4	0.2	0.0	0.5	7.9	19.4
	変化	-0.1	0.0	-0.1	0.0	-0.9	-0.5	-1.7
合計	令和元年	24.3	186.4	32.0	1.1	9.1	27.9	280.8
	令和6年	24.2	180.7	26.2	0.9	9.0	27.2	268.2
	変化	-0.2	-5.7	-5.8	-0.2	-0.1	-0.6	-12.6

※小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

表 5-12 地区別の接道部状況の変化 (2)

単位:km

地区	調査年	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長計
		空地	塀・フェンス	計		
品川地区	令和元年	14.7	6.5	21.2	84.4	158.5
	令和6年	12.4	15.5	28.0	79.0	157.0
	変化	2.0	9.1	6.8	-5.4	-1.5
大崎地区	令和元年	16.2	27.4	43.5	60.5	154.1
	令和6年	23.2	15.9	39.0	66.8	153.8
	変化	7.0	-11.5	-4.5	6.3	-0.2
大井地区	令和元年	22.2	27.2	49.4	110.4	233.3
	令和6年	29.2	23.3	52.5	110.5	232.8
	変化	7.0	-3.9	3.1	0.1	-0.5
荏原地区	令和元年	28.6	52.8	81.4	210.5	375.1
	令和6年	54.0	37.4	91.4	220.2	392.6
	変化	25.4	-15.4	9.9	9.7	17.5
八潮地区	令和元年	9.3	0.1	9.4	3.7	34.2
	令和6年	1.2	6.0	7.2	4.3	30.9
	変化	-8.1	5.9	-2.2	0.6	-3.3
合計	令和元年	91.0	113.9	204.9	469.4	955.2
	令和6年	120.0	98.1	218.1	480.8	967.1
	変化	29.0	-15.8	13.2	11.4	12.0

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

5-4 町目別の接道部状況

町別の接道部緑化率の状況図を図 5-14 に示す。

接道部緑化率が高い町は、臨海部の勝島（65.0%）、八潮（62.9%）、東品川（42.9%）である。公園緑地、大規模な供給処理施設等の分布が多く、それらの施設の接道部緑化率が高いことによるものである。

接道部緑化率が低い町は東八潮（0.0%）、戸越（15.0%）、東中延（15.9%）、二葉（18.8%）であり、区中央部から西部にかけて接道部緑化率の低い町の分布が多い。

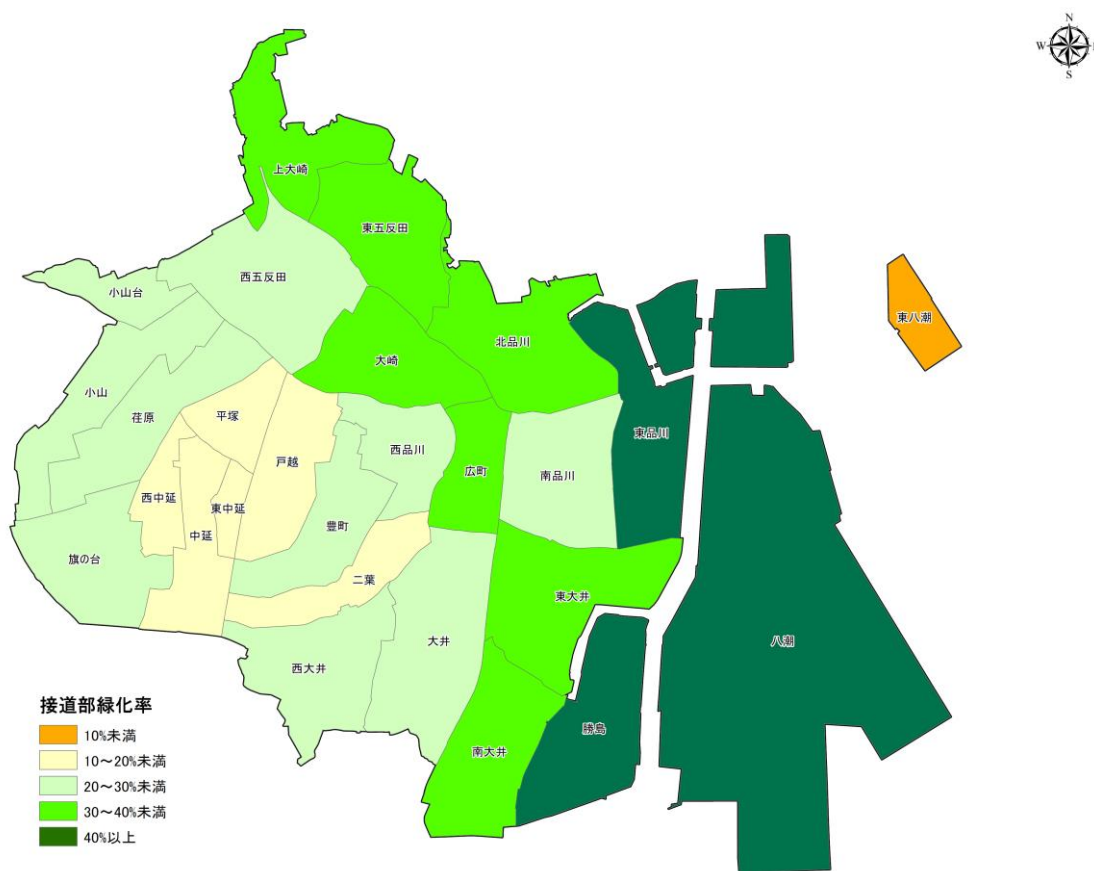


図 5-14 町別の接道部緑化率状況

5—5 町丁目別の接道部状況

町丁目別の接道部緑化率の状況を図 5-15 に示す。詳細は資料編(4)町丁目別接道部状況に示す。

接道部緑化率は高い順に八潮四丁目(100.0%)、勝島三丁目(92.6%)、八潮五丁目(78.0%)、八潮一丁目(69.5%)、勝島一丁目(65.4%)であった。

接道部緑化率が低い順では東八潮(0.0%)、戸越五丁目(11.8%)、戸越六丁目(12.2%)、二葉三丁目(13.3%)、豊町五丁目(14.1%)であった。

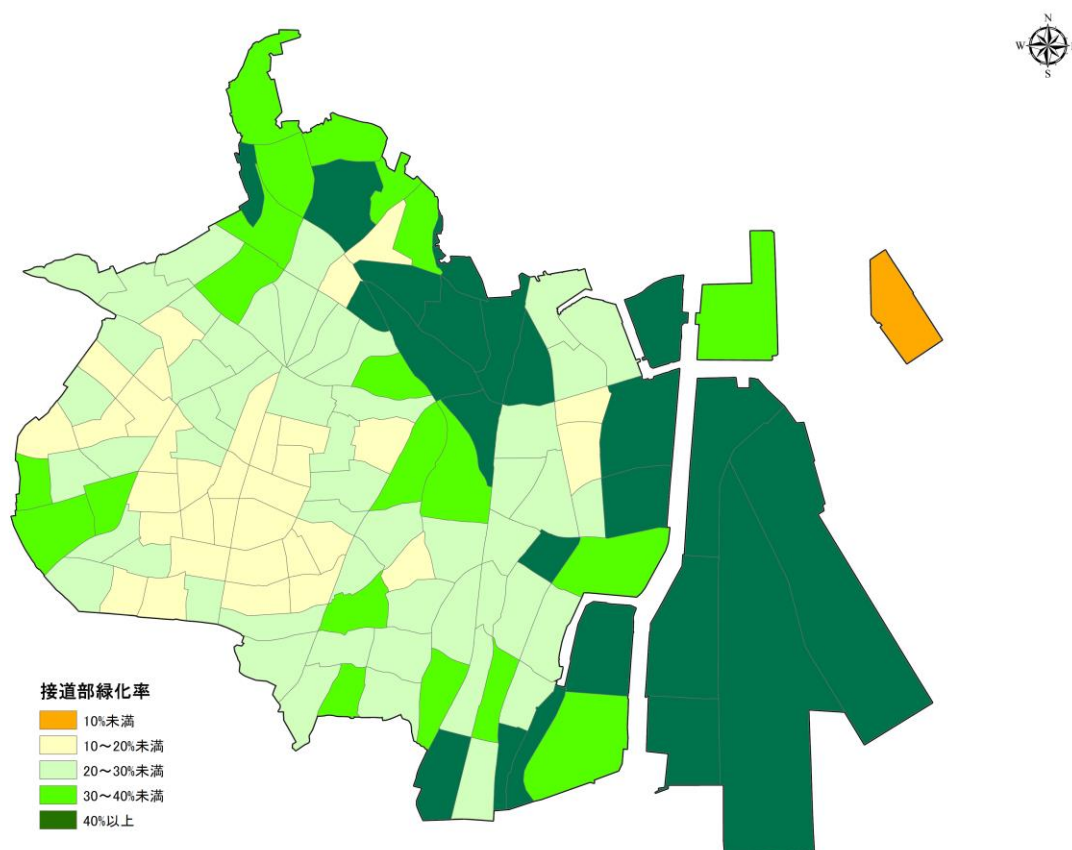


図 5-15 町丁目別の接道部緑化率状況

町丁目別の緑化の可能性が高い接道部の状況を図 5-16、緑化の可能性が低い接道部の状況を図 5-17 に示す。

緑化可能性が高い接道部の占める割合が高い町丁目は、勝島二丁目(51.6%)、戸越二丁目(42.6%)、東品川五丁目(41.4%)、西大井三丁目(41.3%)、西大井二丁目(41.2%)であった。

緑化可能性が低い接道部の占める割合が高い町丁目は、荏原三丁目(71.4%)、中延五丁目(69.4%)、西品川二丁目(68.5%)、小山四丁目(67.6%)、荏原四丁目(66.3%)であった。

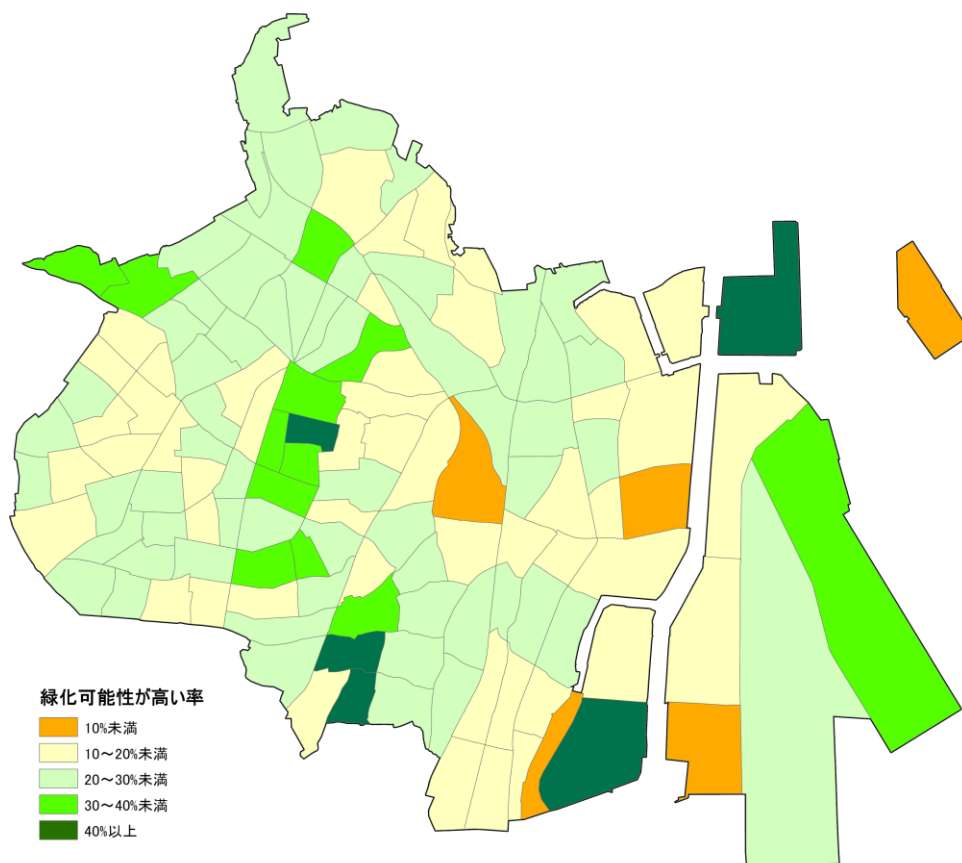


図 5-16 町丁目別の緑化可能性が高い接道部の状況

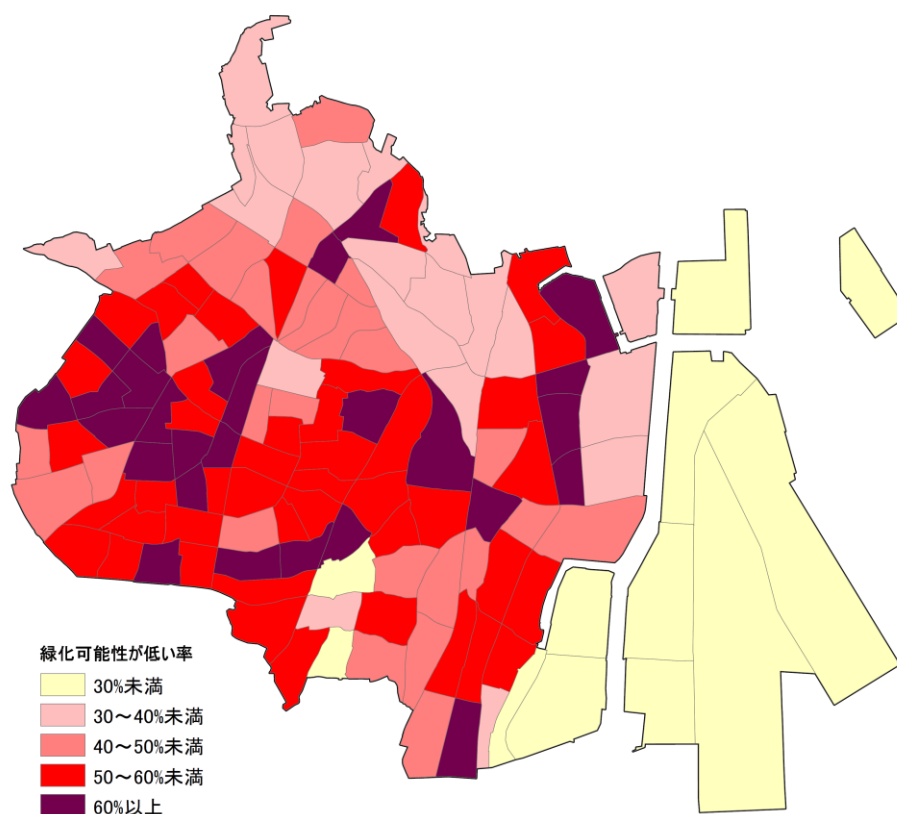


図 5-17 町丁目別の緑化可能性が低い接道部の状況

第6章 屋上緑地調査

6-1 調査の方法

屋上緑地は、空中写真から判読できる建物の屋上、ベランダ、人工地盤上にある緑被地を対象として、第3章緑被調査で得られた屋上緑地について、建物1棟を1箇所として集計を行った。

6-2 区全体の屋上緑地現況

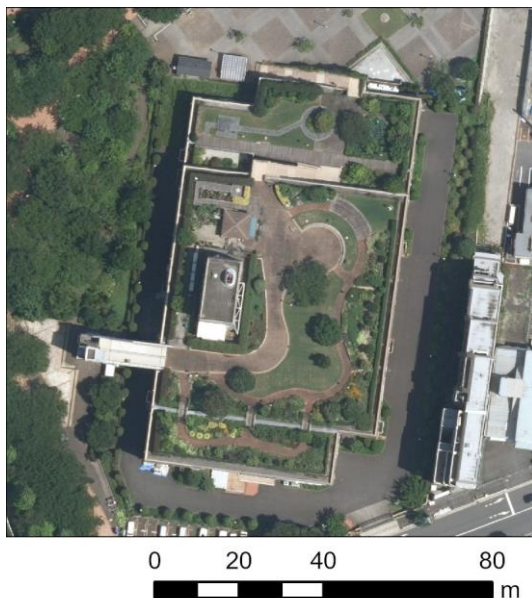
1) 区全体の屋上緑地状況

- 区全体の屋上緑地は2,533箇所、150,567㎡であった。

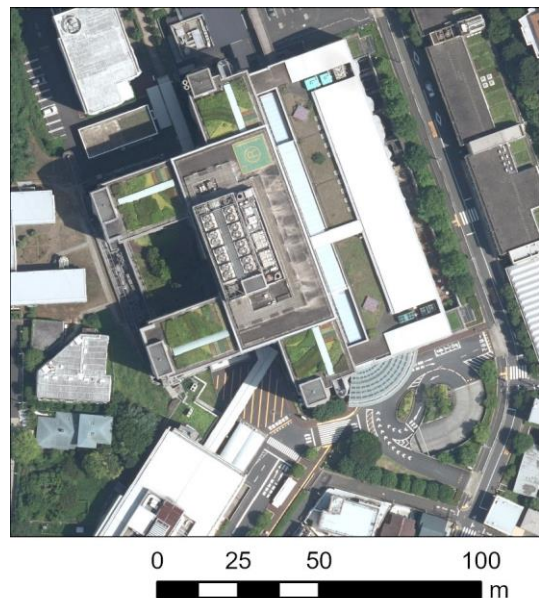
屋上緑地の事例を図6-1、屋上緑地分布図を図6-2に示す。

区全体では2,533箇所の屋上緑地が確認できた。面積は150,567㎡で1箇所当たりの面積は59㎡であった。

屋上緑地面積が最も大きい建築物は八潮三丁目の東京レールゲートEAST (6,649㎡)、北品川六丁目のガーデンシティ品川御殿山 (3,671㎡)、次いで八潮三丁目のJR貨物エフ・プラザ東京L棟 (3,344㎡)、東品川三丁目の東京都下水道局東品川ポンプ所 (区立東品川海上公園屋上庭園) (2,824㎡)、東品川四丁目の品川シーサイドビュータワー (2,143㎡)、東五反田五丁目のNTT東日本関東病院 (1,964㎡) であった。



東京都下水道局東品川ポンプ所



NTT 東日本関東病院

図 6-1 屋上緑地の事例

2) 建物用途別の屋上緑地状況

- 建物用途別では住宅が最も多く 1,539 箇所、53,109 m²であった。
- 小規模な屋上緑地の多くが住宅であった。

建物用途別の屋上緑地の状況を表 6-1 に示す。

建物用途は令和 3 年度東京都土地利用現況調査の建物データを用いている。そのため新たに建築された建物の屋上緑地は、建物データがないことから、建物用途は不明とした。

箇所、面積ともに最も多い建物用途が住宅で 1,539 箇所、緑化面積 53,109 m²であった。次いで商業が 675 箇所、40,080 m²であった。住宅の屋上緑地は、大規模な集合住宅、独立住宅のベランダ等の屋上緑地が多く、1 箇所当たりの面積は 35 m²と小規模なものが多くなっている。

1 箇所当たりの緑化面積が大きい建物用途は供給処理施設 (393 m²)、学校 (286 m²)、工業 (153 m²) であった。公共系の施設に大規模な屋上緑地が多く、学校や供給処理施設等は建物の面積規模が大きいことから、屋上緑地の面積規模も大きくなっている。

表 6-1 建物用途別の屋上緑地の状況

建物用途	箇所数	屋上緑地 面積 (m ²)	1箇所当たり 面積 (m ² /箇所)	建物面積 (参考) (m ²)	建物緑化率 (参考) (%)
学校	65	18,587	286	129,308	14.4
供給処理施設	16	6,286	393	34,204	18.4
公園・鉄道・その他	3	346	115	1,053	32.8
その他の公共公益施設	96	11,356	118	92,788	12.2
商業	675	40,080	59	342,041	11.7
住宅	1,539	53,109	35	564,956	9.4
工業	123	18,779	153	117,894	15.9
不明	16	2,024	127	—	—
合計	2,533	150,567	59	—	—

※屋上緑地面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

※建物面積は東京都土地利用現況調査の建物データの図形面積

※建物緑化率は建物面積に占める屋上緑地面積の割合

屋上緑地面積の規模別の状況を表 6-2 に示す。

住宅では住宅全体箇所数の 8 割以上が 50 m²未満の小規模なものであるが、300 m²以上の屋上緑地も 32 箇所、19,563 m²が確認されている。商業施設も 50 m²未満のものが多いが、300 m²以上の大規模な屋上緑地は緑地面積では最も多くなっている。

学校では、比較的面積規模の大きい屋上緑地が多いことが分かる。

表 6-2 規模別の建物用途別屋上緑地の状況

建物用途	単位	50m ² 未満	50～100m ²	100～300m ²	300m ² 以上	合計
学校	箇所数	13	5	24	23	65
	面積(m ²)	287	345	4,555	13,400	18,587
供給処理施設	箇所数	6	1	5	4	16
	面積(m ²)	87	93	1,005	5,101	6,286
公園・鉄道・その他	箇所数	2	0	0	1	3
	面積(m ²)	24	0	0	321	346
その他の公共公益施設	箇所数	51	18	18	9	96
	面積(m ²)	815	1,275	3,162	6,105	11,356
商業	箇所数	546	42	56	31	675
	面積(m ²)	5,003	2,968	9,797	22,313	40,080
住宅	箇所数	1,333	77	97	32	1,539
	面積(m ²)	10,942	5,587	17,018	19,563	53,109
工業	箇所数	99	4	10	10	123
	面積(m ²)	981	349	1,582	15,867	18,779
不明	箇所数	9	2	3	2	16
	面積(m ²)	221	167	403	1,233	2,024
合計	箇所数	2,059	149	213	112	2,533
	面積(m ²)	18,359	10,783	37,522	83,904	150,567

※屋上緑地面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

3) 区全体の屋上緑地状況変化

- 令和元年度調査と令和6年度調査の区全体の経年変化では、16箇所減少し、緑地面積は14,746㎡増加した。
- 最も箇所数が増えたのは住宅であった。また、最も箇所数が減少したのは商業であった。
- 供給処理施設と用途不明の緑地面積は減少したが、その他の建物用途の緑地面積は増加した。

屋上緑地の建物用途別の経年変化を表6-3に示す。

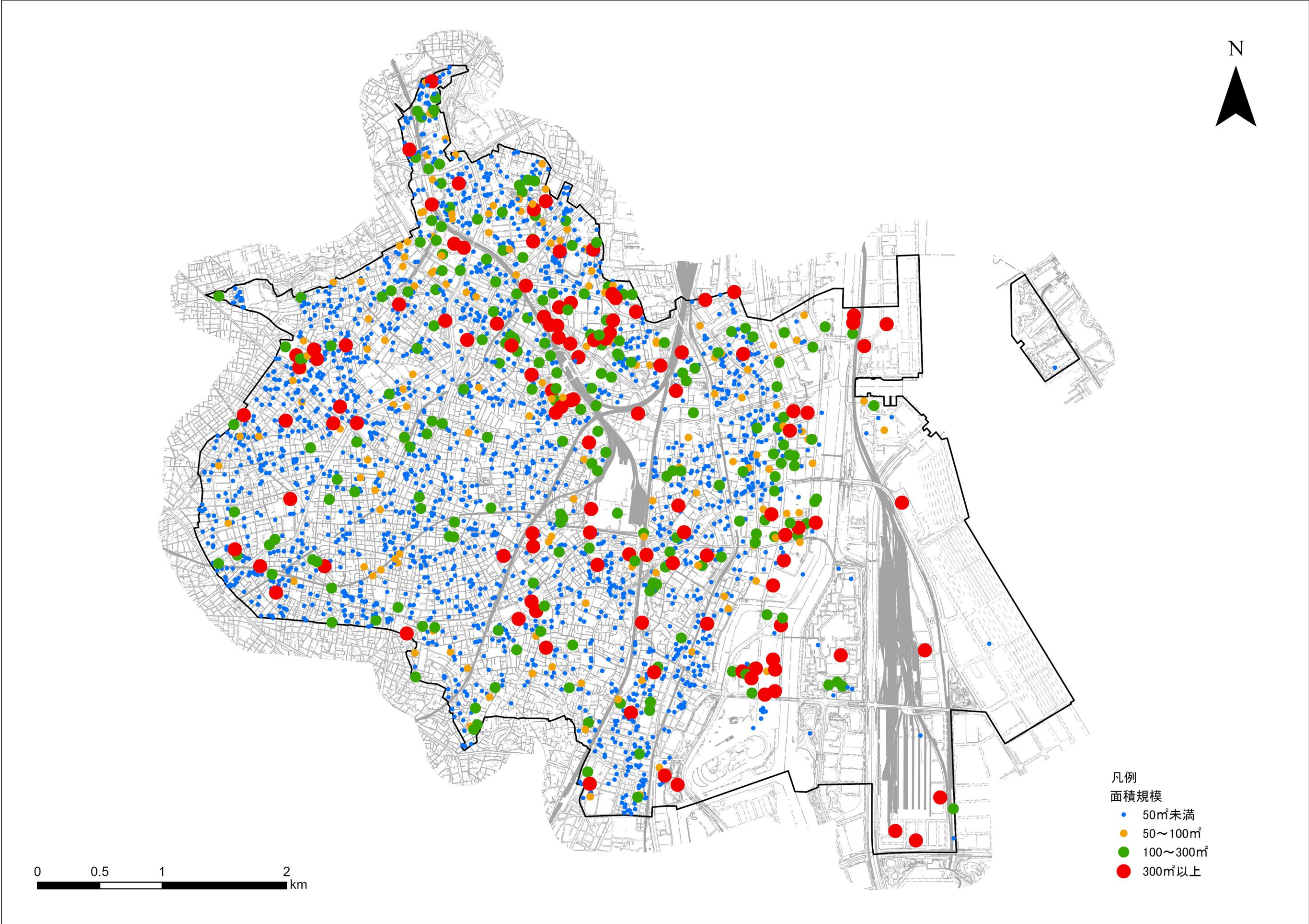
箇所数は学校で12箇所、公園・鉄道・その他で1箇所、その他の公共公益施設で11箇所、住宅で25箇所、用途不明で1箇所増加したが、供給処理施設で4箇所、商業で34箇所、工業で28箇所の減少であった。緑地面積は供給処理施設で117㎡、用途不明で299㎡減少したが、その他の建物用途は増加し、最も増加が大きい用途は工業の4,911㎡、次いで商業が4,011㎡、学校で2,705㎡であった。

商業、工業の屋上緑地が減少した多くの箇所では、令和元年度調査では屋上緑地があったが、本調査では消失していることが確認された。一方で、増加箇所は、新築や建替えに伴う増加が多く、大規模な屋上緑地箇所が増えたことから、箇所数は減少しても緑地面積が増加したと考えられる。

表 6-3 屋上緑地の建物用途別の経年変化

建物用途	令和元年度		令和6年度		変化	
	箇所数	面積(㎡)	箇所数	面積(㎡)	箇所数	面積(㎡)
学校	53	15,882	65	18,587	12	2,705
供給処理施設	20	6,403	16	6,286	-4	-117
公園・鉄道・その他	2	80	3	346	1	265
その他の公共公益施設	85	10,457	96	11,356	11	898
商業	709	36,070	675	40,080	-34	4,011
住宅	1,514	50,738	1,539	53,109	25	2,371
工業	151	13,868	123	18,779	-28	4,911
不明	15	2,323	16	2,024	1	-299
合計	2,549	135,821	2,533	150,567	-16	14,746

※屋上緑地面積は、小数第1位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT 利許第 06-K109-5 号)

図 6-2 屋上緑地分布図

6-3 地区別の屋上緑地現況

1) 地区別の屋上緑地状況

- 屋上緑地箇所数が最も多い地区は荏原地区の 917 箇所であった。
- 屋上緑地面積が最も大きい地区は品川地区の 45,029 m²であった。

地区別の屋上緑地の面積と箇所を表 6-4、図 6-3 に示す。

屋上緑地の箇所数は荏原地区が最も多く 917 箇所、次いで大崎地区 588 箇所、大井地区 528 箇所であった。屋上緑地面積では品川地区が最も多く 45,029 m²、次いで大崎地区 38,187 m²、大井地区 35,888 m²であった。

1ha 当たりの箇所数及び緑地面積では大崎地区が最も多く、171 箇所、11,133 m²であった。

表 6-4 地区別の屋上緑地の状況

地区名	地区面積 (ha)	箇所数	屋上緑地 面積 (m ²)	1箇所当たり 面積 (m ² /箇所)	1ha当たり 箇所数 (箇所/ha)	1ha当たり 面積 (m ² /ha)
品川地区	4.31	473	45,029	95	110	10,447
大崎地区	3.43	588	38,187	65	171	11,133
大井地区	4.73	528	35,888	68	112	7,587
荏原地区	5.81	917	24,028	26	158	4,136
八潮地区	4.57	27	7,436	275	6	1,627
合計	22.85	2,533	150,567	59	111	6,589

※屋上緑地面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

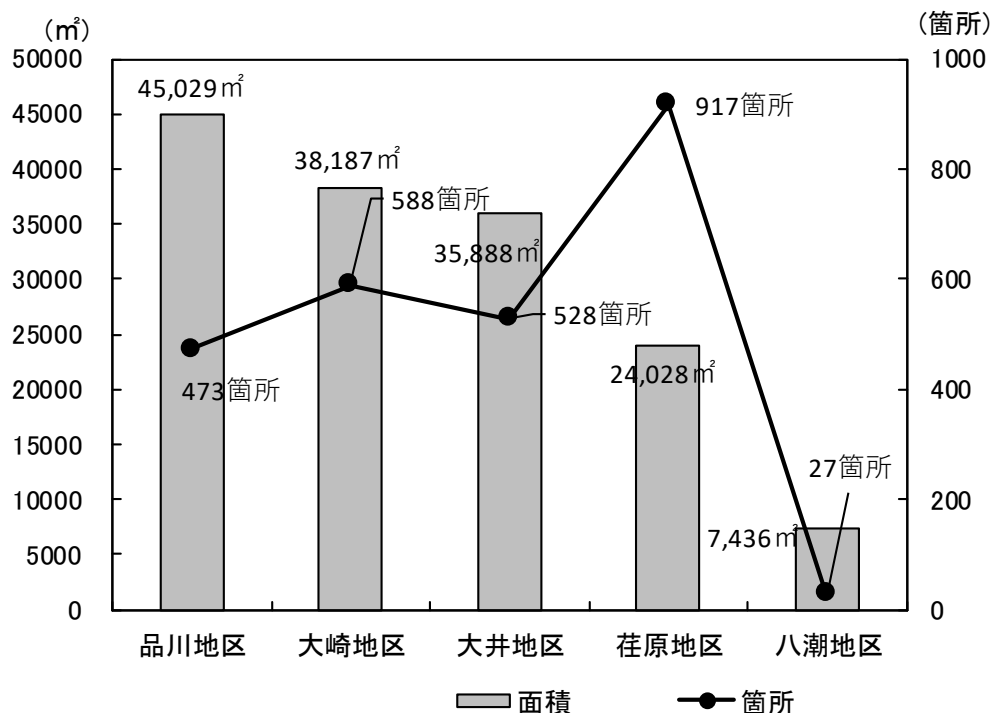


図 6-3 地区別の屋上緑地の箇所と面積

品川区みどりの実態調査

地区別の規模別屋上緑地の状況を表 6-5、地区別の屋上緑地規模別箇所の割合を図6-4、地区別の屋上緑地規模別緑地面積の割合を図6-5に示す。

規模の小さい屋上緑地は荏原地区、大崎地区、大井地区に多く、いずれも全体箇所数の 8 割以上が緑化面積 50 m²未満のものであった。また、大崎地区、品川地区では、緑地面積 100～300 m²未満の箇所数が比較的多いことが分かる。

屋上緑地面積では、品川地区、大井地区、大崎地区では 300 m²以上の緑地面積が多くなっているが、荏原地区は 50 m²未満の緑地面積が占める割合が比較的高い。荏原地区には住宅密集地域が広がっており、面積規模の小さい建築物が多いことから、小規模な屋上緑地が多くなっていると考えられる。また、品川地区では 300 m²以上の屋上緑地が 28,371 m²と 5 地区中最も多いが、北品川や京浜運河沿いに大規模な屋上緑地が分布していることによる。また、大井地区、大崎地区においても大崎駅周辺の面積規模の大きい屋上緑地の分布がみられる。

表 6-5 地区別の規模別屋上緑地の状況

地区	単位	50m ² 未満	50～100m ²	100～300m ²	300m ² 以上	合計
品川地区	箇所数	344	39	61	29	473
	面積(m ²)	3,334	2,749	10,575	28,371	45,029
大崎地区	箇所数	444	46	67	31	588
	面積(m ²)	4,723	3,353	12,031	18,080	38,187
大井地区	箇所数	431	29	39	29	528
	面積(m ²)	4,024	2,038	7,275	22,551	35,888
荏原地区	箇所数	825	33	41	18	917
	面積(m ²)	6,126	2,475	6,549	8,877	24,028
八潮地区	箇所数	15	2	5	5	27
	面積(m ²)	152	168	1,091	6,025	7,436
合計	箇所数	2,059	149	213	112	2,533
	面積(m ²)	18,359	10,783	37,522	83,904	150,567

※屋上緑地面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

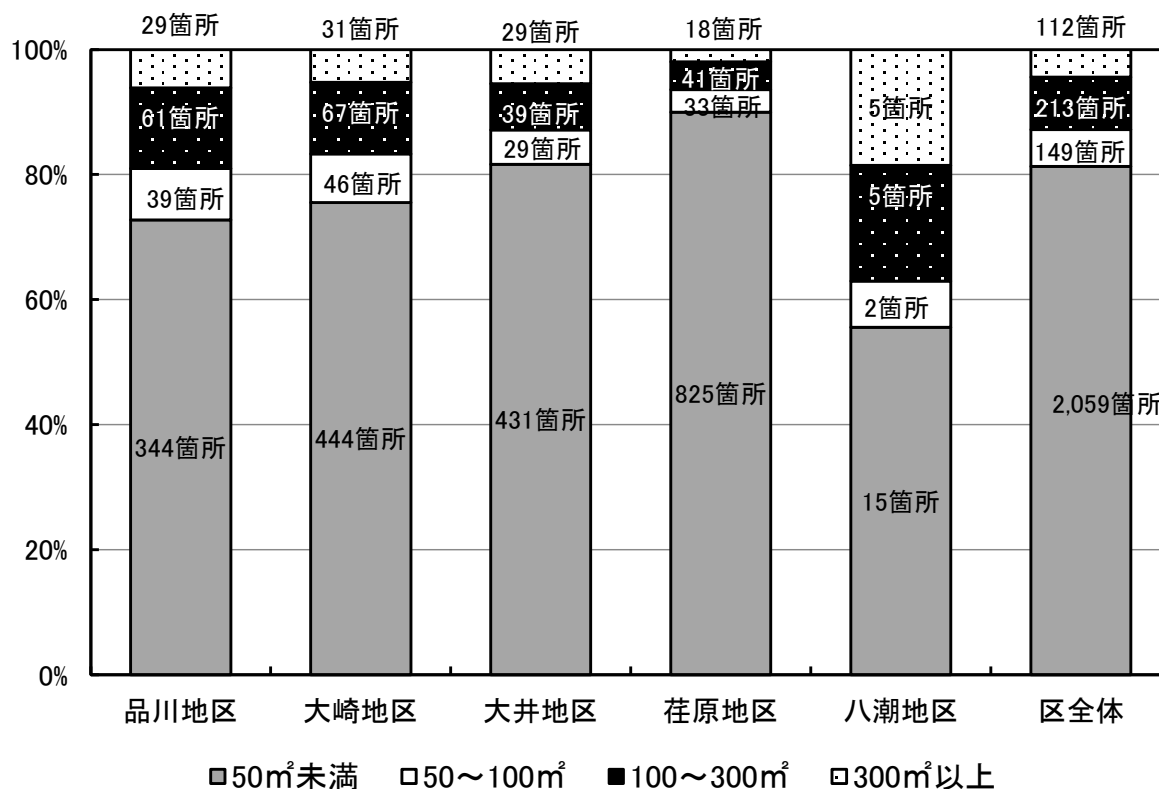


図 6-4 地区別の屋上緑地規模別箇所の割合

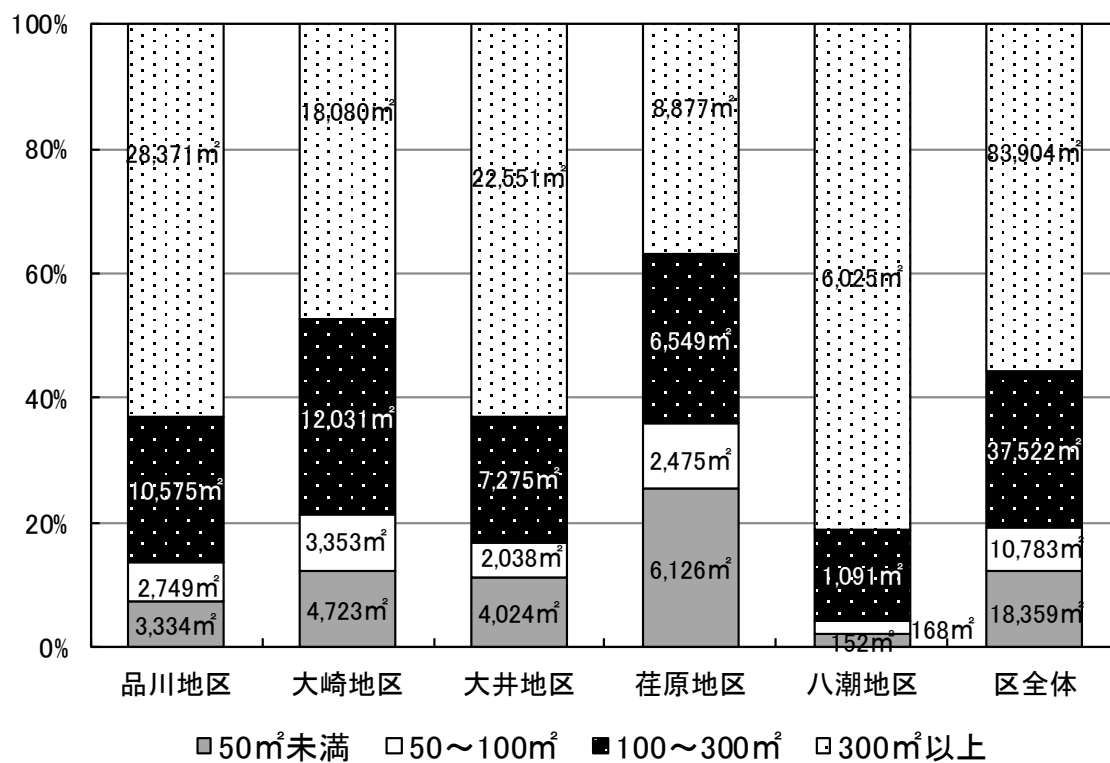


図 6-5 地区別の屋上緑地規模別緑地面積の割合

2) 地区別の屋上緑地状況変化

地区別の屋上緑地の変化状況を表 6-6 に示す。

箇所数では品川地区、荏原地区、八潮地区で増加し、それ以外の地区では減少した。緑地面積では荏原地区、八潮地区のみ減少であった。

屋上緑地面積の増加が最も多い地区は大井地区の 9,247 m²であった。主な増加箇所は、西大井一丁目の業務系施設、勝島一丁目の業務系施設、倉庫施設、南大井四丁目の学校施設の建築に伴う新たな屋上緑地の整備である。

八潮地区では 5 箇所増加したが、緑地面積は 488 m²の減少であった。令和元年度調査で確認された屋上緑地が、令和 6 年度調査では消失している箇所が多数確認されている。その多くが建築物の形状等には変化がなく、緑化が縮小したものや消失したものと考えられる。

表 6-6 屋上緑地の地区別経年変化

地区	令和元年度		令和6年度		変化	
	箇所	面積(m ²)	箇所	面積(m ²)	箇所	面積(m ²)
品川地区	406	40,042	473	45,029	67	4,987
大崎地区	604	36,740	588	38,187	-16	1,447
大井地区	605	26,641	528	35,888	-77	9,247
荏原地区	912	24,474	917	24,028	5	-447
八潮地区	22	7,924	27	7,436	5	-488
合計	2,549	135,821	2,533	150,567	-16	14,746

※屋上緑地面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

第7章 樹林地調査

7-1 調査の方法

樹林地調査では、まとまりのある樹木群の分布状況等を把握するため、第3章緑被調査で得られた樹木被覆地のうち面積 300 m²以上、平均高さ 3m以上を樹林地として集計した。

樹林地の抽出方法は、緑被データのうち樹木被覆地データを抽出し、東京都土地利用現況調査データを重ね合わせ、道路上のものは樹林地対象外として除いている。そして、東京都土地利用データ 1 ポリゴンにおいて、面積 300 m²以上の樹木被覆地データを抽出した。さらに面積 300 m²以上の樹木被覆地について、空中写真の画像マッチングによって生成したデジタル表層モデル (DSM) と航空レーザから作成したデジタル標高モデル (DEM) より平均高さを計測し、高さ 3m以上を抽出し、樹林地データとした。樹林地高さの計測について、以下に示す。

なお、箇所数などの集計にあたっては、抽出された図形毎に 1 箇所としている。

1) 空中写真による数値表層モデルの作成について

令和 6 年度調査では、緑被調査の空中写真を高密度で撮影しており、高精度の数値表層モデル (DSM) を作成することが可能となっている。そこで緑被判読作業に用いた空中写真から作成した DSM を用いて、樹林地の平均高さ等を測定した。

緑被調査に用いた空中写真から作成した DSM を用いることによって、時間や時期のずれのない樹木または樹林地の高さを得ることが可能である。

高密度撮影の空中写真は、互いに 60%前後の重複率となり、地上の同じ場所について異なる複数の視点からの画像が得られる。DSM はこの性質を利用して、近年盛んに用いられている SfM (Structure from Motion) ⁽¹⁾ 技術により作成した。

(1) SfM : 動画や静止画等カメラの視点撮影した複数枚の画像からそのシーンの 3 次元形状とカメラ位置を同時に復元する要素技術。

2) デジタル標高モデル (DEM) について

空中写真データによる DSM データでは、精度の高い地面の高さが得られないため、航空レーザ点群から作成した DEM を用いることとした。用いた DEM は、調査機関のアーカイブデータである。

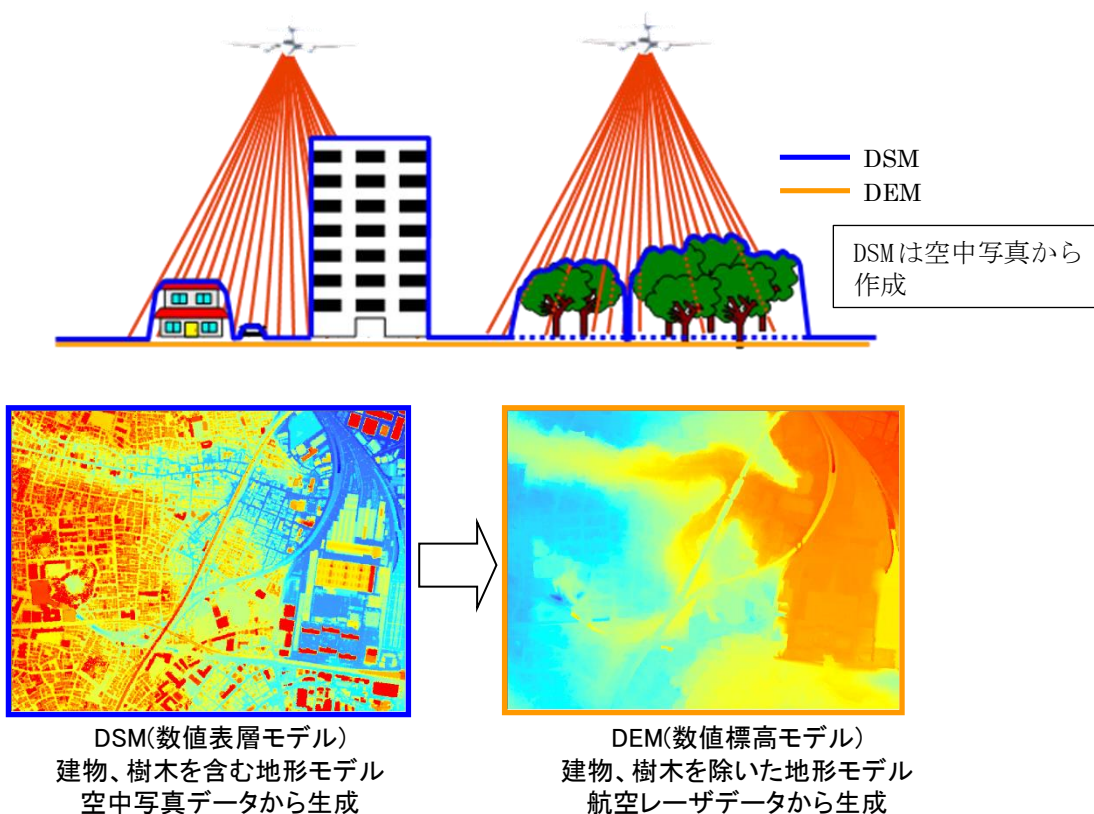
3) 樹林地高さの計測

前項までの DSM から DEM を引くと、樹木などの地物の地面からの高さを求めることができる (図 7-1)。以下、このデータを高さデータという。

本業務では、まず樹木の高さを求めた後、樹林地の平均高さを算出した。

樹林地ポリゴンを用いて、高さデータから樹林地の範囲を切り出し、樹林地ごとの高さを算出した (図 7-2)。

- ・ DSM (海面からの高さ、地物の高さも含む)
- ・ DEM (地面の高さ)
- ・ 高さデータ (DSM から DEM を引いたもの、樹木や建物など地物の地面からの高さ)



DSM から DEM を引くと、地物 (樹木等) の高さが求められる

図 7-1 航空測量データから作成される地形データ

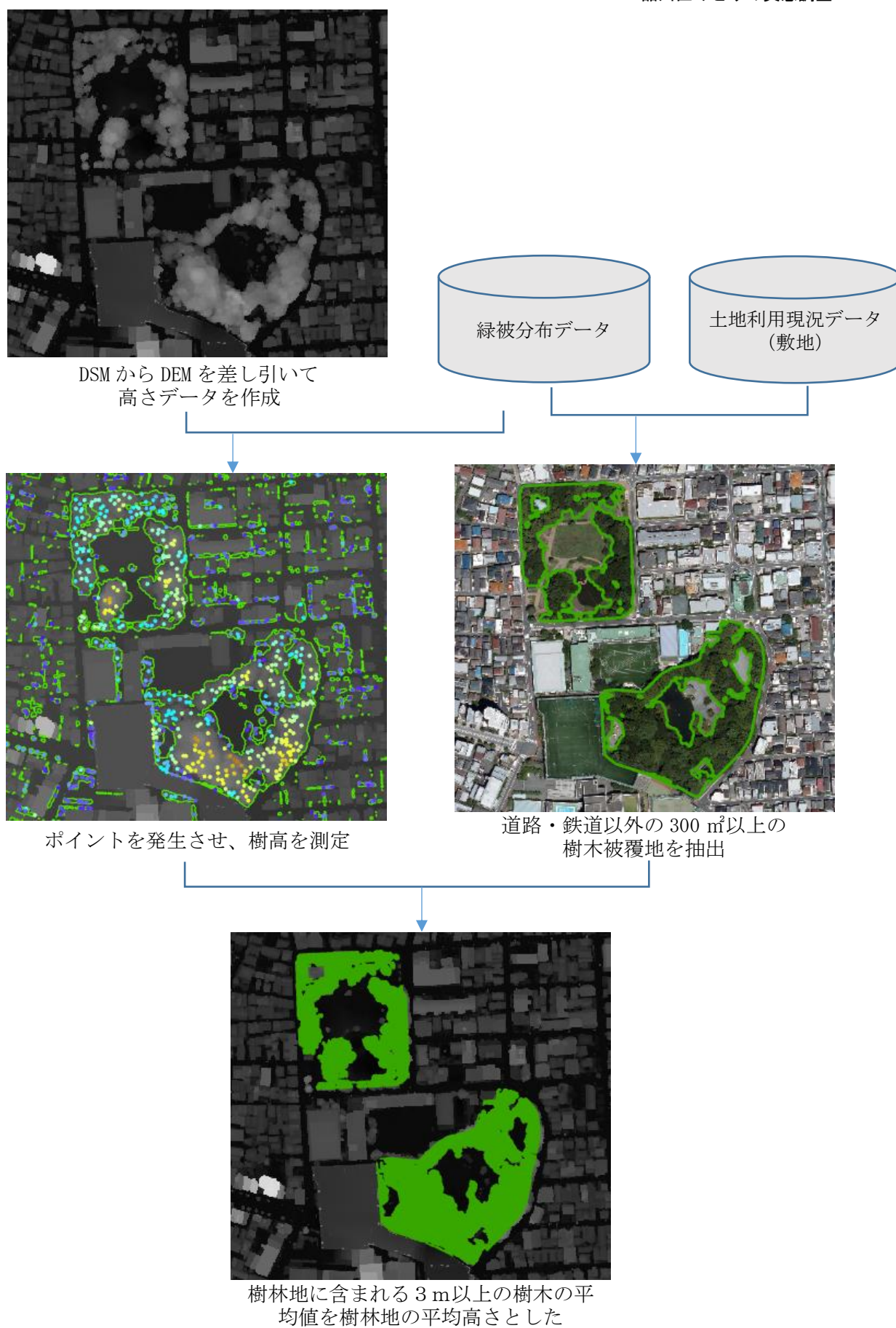


図 7-2 樹林地高さの算出手順

7-2 区全体の樹林地現況

1) 区全体の樹林地状況

- 区全体の樹林地は 871 箇所、120.3ha であった。

区全体の樹林地の状況を表 7-1、樹林地分布図を図 7-4 に示す。

区全体の樹林地は 871 箇所、120.3ha で、1 箇所当たりの平均面積は 1,381 m²であった。

最も面積が大きい樹林地は大井ふ頭中央海浜公園のなぎさの森に位置し、面積 63,420 m²であった。次いで林試の森公園 (55,797 m²)、みなとが丘ふ頭公園 (39,711 m²)、大井ふ頭緑道公園 (38,753 m²)、大井ふ頭中央海浜公園のスポーツの森 (22,969 m²) であり、大規模な樹林地の多くが公園内の樹林地であった。

表 7-1 区全域の面積規模別樹林地の状況

面積規模	箇所	面積(ha)
300～500m ²	383	14.7
500～1000m ²	279	19.4
1000～3000m ²	144	24.1
3000～5000m ²	30	11.6
5000～10000m ²	21	14.4
10000m ² 以上	14	36.0
区全域	871	120.3

※樹林地面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

2) 土地利用別の樹林地状況

- 公共系の樹林地は 352 箇所、79.0ha であった。
- 民間系の樹林地は 519 箇所、41.3ha であった。
- 公園、運動場等に最も多く 203 箇所、62.2ha であった。

土地利用区別の面積規模別樹林地の状況を表 7-2、面積規模別の樹林地箇所の割合を図 7-3 に示す。

公共系のうち、公園、運動場等以外で樹林地の多い土地利用は学校（63 箇所、6.3ha）、供給施設（17 箇所、4.2ha）であった。

民間系では、樹林地の多い土地利用は集合住宅（170 箇所、14.0ha）、商業施設（100 箇所、9.2ha）、独立住宅（96 箇所、5.3ha）、宗教施設（64 箇所、5.8ha）であった。

規模の大きい樹林地は公園や学校等の公共系に多く、10,000㎡以上の樹林地は民間系の土地利用においては確認されなかった。主な民有地の樹林地は西品川一丁目の集合住宅、大崎駅周辺の大規模民間施設、八潮五丁目の都市機構の集合住宅等であった。

表 7-2 土地利用区別の面積規模別樹林地の状況

土地利用区分		300～500㎡		500～1000㎡		1000～3000㎡		3000～5000㎡		5000～10000㎡		10000㎡以上		合計	
		箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
公共系	学校	33	1.3	21	1.4	7	1.4	0	0.0	1	0.7	1	1.5	63	6.3
	供給施設	3	0.1	4	0.3	7	1.3	1	0.5	1	0.6	1	1.5	17	4.2
	処理施設	5	0.2	4	0.3	6	1.1	0	0.0	1	0.5	0	0.0	16	2.1
	公園、運動場等	65	2.6	58	3.9	38	6.4	17	6.6	13	9.8	12	33.0	203	62.2
	鉄道等	11	0.4	5	0.4	2	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18	1.0
	官公庁施設	5	0.2	7	0.5	3	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	15	1.2
	文化施設	4	0.1	0	0.0	4	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	1.0
	医療施設	4	0.2	4	0.3	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	0.7
	厚生施設	2	0.1	0	0.0	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.3
	計	132	5.2	103	7.0	69	12.1	18	7.0	16	11.6	14	36.0	352	79.0
民間系	宗教施設	32	1.3	18	1.3	12	2.3	1	0.4	1	0.5	0	0.0	64	5.8
	商業施設	43	1.7	37	2.7	13	2.0	6	2.4	1	0.5	0	0.0	100	9.2
	独立住宅	60	2.3	31	2.1	4	0.5	0	0.0	1	0.6	0	0.0	96	5.3
	集合住宅	75	2.8	60	4.1	29	4.4	4	1.4	2	1.2	0	0.0	170	14.0
	工場等	23	0.9	13	0.9	5	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	41	2.7
	その他	18	0.7	17	1.2	12	2.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	48	4.3
	計	251	9.6	176	12.4	75	12.0	12	4.6	5	2.8	0	0.0	519	41.3
合計		383	14.7	279	19.4	144	24.1	30	11.6	21	14.4	14	36.0	871	120.3

※樹林地面積は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

品川区みどりの実態調査

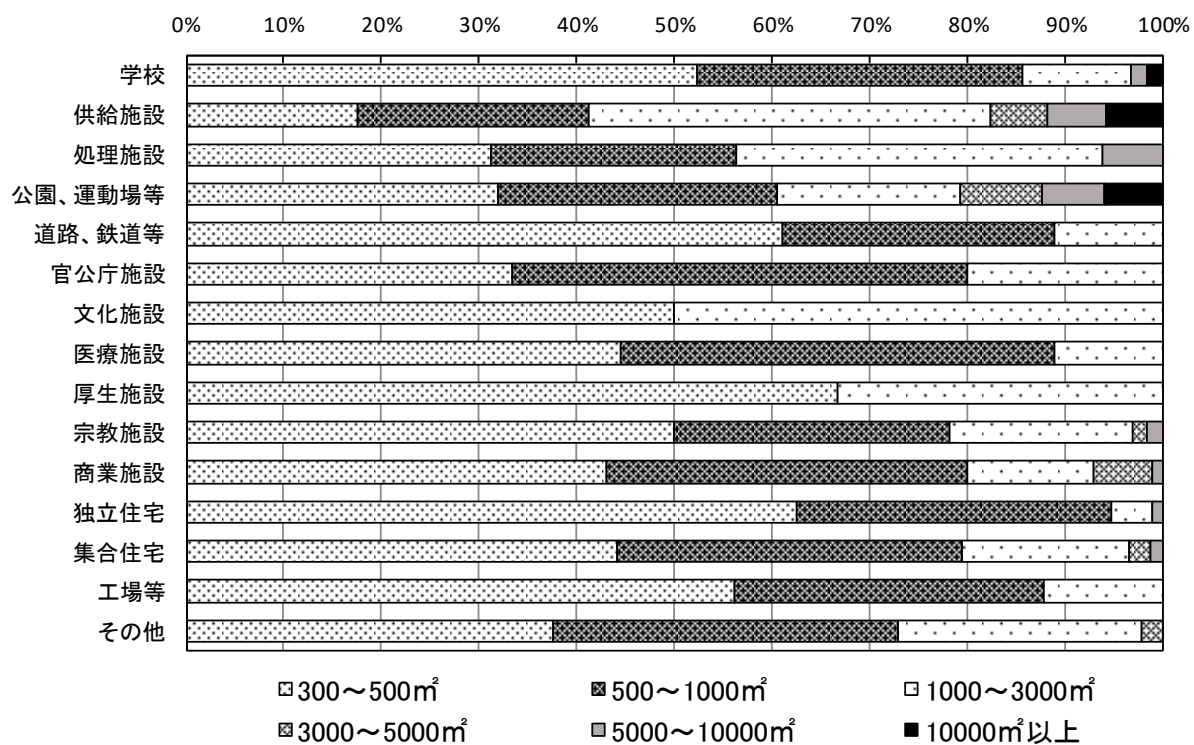
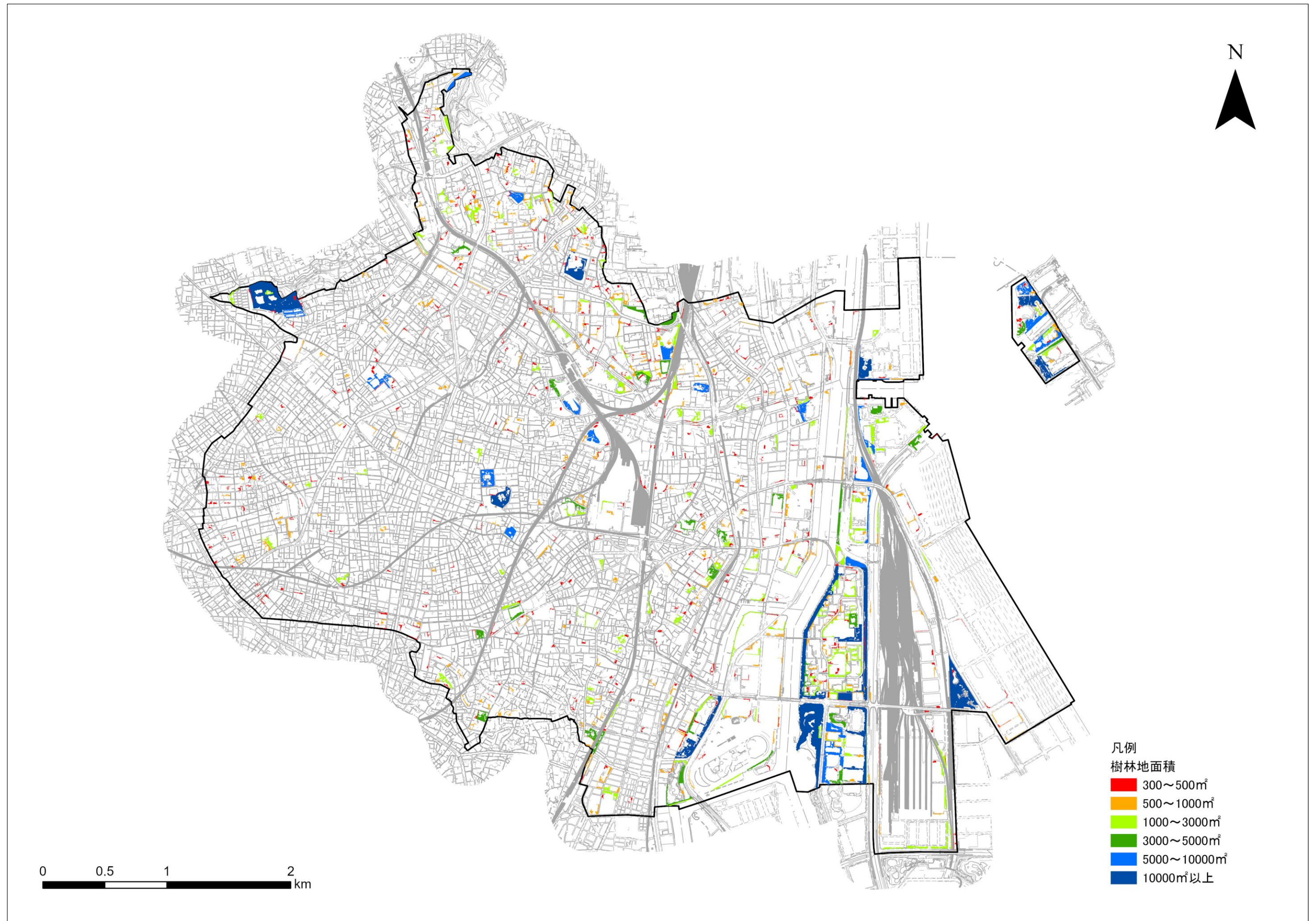


図 7-3 土地利用別の面積規模別樹林地箇所の割合



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT 利許第 06-K109-5 号)

図 7-4 樹林地分布図

7-3 地区別の樹林地の現況

- ・ 樹林地箇所数が最も多いのは品川地区で 201 箇所 (19.3ha) であった。
- ・ 樹林地面積が最も大きいのは八潮地区で 50.6ha (195 箇所) であった。

地区別の面積規模別樹林地の状況を表 7-3、地区別の樹林地面積と樹林地率を表 7-4、地区別の面積規模別樹林地箇所の割合を図 7-5 に示す。

樹林地箇所が最も多い地区は品川地区の 201 箇所、樹林地面積が最も大きい地区は八潮地区の 50.6ha であった。品川地区では面積規模が 300～500 m²の樹林地が 98 箇所あり、小規模な樹林地が多い。10,000 m²以上の樹林地も 1 箇所確認された。八潮地区は箇所数も 195 箇所と 2 番目に多い。面積規模が 10,000 m²以上の樹林地は 9 箇所、23.9ha、5,000～10,000 m²のものは 10 箇所、7.3ha と、他地区と比較して大規模な樹林地が多い。これらの多くが臨海部の公園に分布している。

一方、樹林地箇所数が最も少ない地区は、荏原地区で 114 箇所、樹林地面積が最も小さい地区は大崎地区で 15.0ha であった。荏原地区は地区面積が 581ha と最も大きい、樹林地率（地区面積に対する樹林地面積の割合）は 2.76%である。大崎地区は地区面積が 343ha と最も小さく、樹林地率は 4.37%で、樹林地率では 3 番目であった。

表 7-3 地区別の面積規模別樹林地の状況

地区	300～500m ²		500～1000m ²		1000～3000m ²		3000～5000m ²		5000～10000m ²		10000m ² 以上		合計	
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
品川地区	98	3.7	64	4.6	26	3.9	8	3.0	4	2.5	1	1.5	201	19.3
大崎地区	80	3.1	58	4.0	23	3.9	2	0.8	3	1.7	1	1.5	167	15.0
大井地区	81	3.2	69	4.6	33	5.7	10	3.7	0	0.0	1	2.3	194	19.5
荏原地区	65	2.6	34	2.3	9	1.5	0	0.0	4	2.8	2	6.9	114	16.0
八潮地区	59	2.3	54	3.8	53	9.1	10	4.1	10	7.3	9	23.9	195	50.6
合計	383	14.7	279	19.4	144	24.1	30	11.6	21	14.4	14	36.0	871	120.3

※樹林地面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

表 7-4 地区別の樹林地面積と樹林地率

地区	地区面積(ha)	樹林地面積(ha)	樹林地率(%)
品川地区	431	19.3	4.47
大崎地区	343	15.0	4.37
大井地区	473	19.5	4.12
荏原地区	581	16.0	2.76
八潮地区	457	50.6	11.06
合計	2,285	120.3	5.27

※樹林地面積は小数第 2 位、樹林地率は小数第 3 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

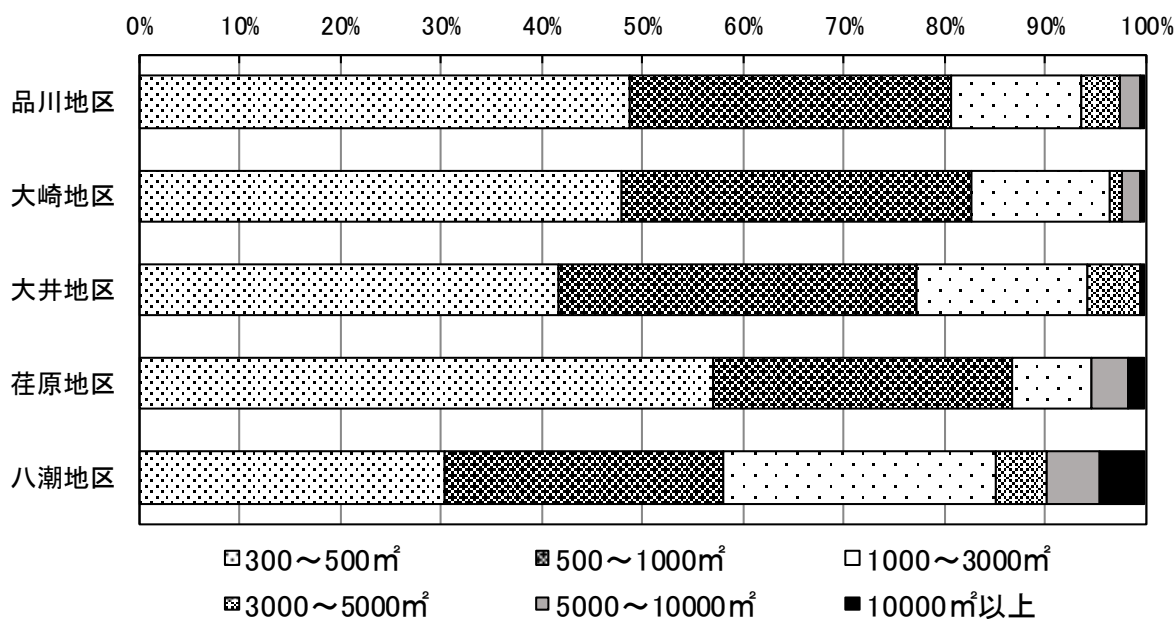


図 7-5 地区別の面積規模別樹林地箇所の割合

7-4 樹林地の経年変化

- 樹林地箇所数は 15 箇所、樹林地面積は 5.1ha の増加であった。

令和元年度調査と令和 6 年度調査の樹林地規模別の箇所と面積の変化を表 7-5 に示す。

樹林地箇所数は 500~1,000 m² の増加が最も多く 14 箇所であった。面積は 3000~5000 m² の増加が最も大きく 3.4ha であった。

箇所数が最も減少したのは 300~500 m² で、面積は 10,000 m² 以上が最も大きく減少した。

表 7-5 樹林地規模別の箇所と面積の変化

面積規模	令和元年調査		令和6年調査		変化	
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
300~500m²	395	15.1	383	14.7	-12	-0.3
500~1000m²	265	18.6	279	19.4	14	0.8
1000~3000m²	144	24.5	144	24.1	0	-0.3
3000~5000m²	22	8.2	30	11.6	8	3.4
5000~10000m²	17	11.8	21	14.4	4	2.6
10000m²以上	13	37.1	14	36.0	1	-1.1
区全域	856	115.2	871	120.3	15	5.1

※樹林地面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

土地利用別の樹林地箇所と面積の変化を表 7-6 に示す。

公共系施設の樹林地は 8 箇所、2.0ha の増加であった。公共系施設のうち、樹林地面積の増加が最も大きい土地利用は学校と公園、運動場等で 0.7ha の増加であった。樹林地箇所の増加が最も多いのは公園、運動場等で 7 箇所の増加であった。文化施設は 3 箇所、0.3ha の減少であった。

民間系施設の樹林地は 7 箇所、3.0ha の増加であった。樹林地箇所の増加が最も大きい土地利用は集合住宅で、20 箇所（3.2ha）の増加、次いで宗教施設で、5 箇所の増加であった。

表 7-6 土地利用別の樹林地箇所と面積の変化

土地利用区分		令和元年調査		令和6年調査		変化	
		箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
公共系	学校	60	5.7	63	6.3	3	0.7
	供給施設	22	4.0	17	4.2	-5	0.3
	処理施設	14	1.6	16	2.1	2	0.5
	公園、運動場等	196	61.5	203	62.2	7	0.7
	鉄道等	16	0.9	18	1.0	2	0.1
	官公庁施設	12	1.1	15	1.2	3	0.1
	文化施設	11	1.3	8	1.0	-3	-0.3
	医療施設	9	0.6	9	0.7	0	0.0
	厚生施設	4	0.3	3	0.3	-1	0.0
	計	344	76.9	352	79.0	8	2.0
民間系	宗教施設	59	5.8	64	5.8	5	0.0
	商業施設	98	8.3	100	9.2	2	1.0
	独立住宅	106	5.9	96	5.3	-10	-0.6
	集合住宅	150	10.8	170	14.0	20	3.2
	工場等	48	3.6	41	2.7	-7	-0.9
	その他	51	3.9	48	4.3	-3	0.4
	計	512	38.3	519	41.3	7	3.0
合計		856	115.2	871	120.3	15	5.1

※樹林地面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

地区別の樹林地箇所と面積の変化を表 7-7 に示す。

樹林地が最も増加したのは箇所数、面積ともに品川地区の 21 箇所、3.1ha であった。

表 7-7 地区別の樹林地箇所と面積の変化

地区	令和元年調査		令和元年調査		変化	
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
品川地区	180	16.1	201	19.3	21	3.1
大崎地区	170	14.8	167	15.0	-3	0.2
大井地区	200	20.0	194	19.5	-6	-0.6
荏原地区	110	16.0	114	16.0	4	0.0
八潮地区	196	48.3	195	50.6	-1	2.3
合計	856	115.2	871	120.3	15	5.1

※樹林地面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

第8章 壁面緑化調査

8－1 調査の方法

壁面緑化調査は令和元年度からの継続実施となる調査である。

1) 壁面緑化の定義

調査対象とする壁面緑化の定義は以下のとおりとした。

- ・ 建築物の壁面を登はんまたは下垂するもの。
- ・ ネットや支柱などの支持体に植物を絡ませて壁面を緑化するもの。
- ・ 壁面設置した植栽基盤に植物を生育させるもの（移動可能なプランター等は除く）。
- ・ 外観上管理されていないと思われる自然発生的なナツツタ等の壁面緑化は調査対象外とする。

2) 調査の方法

高架道路を除く区内全域の道路に面する建物、擁壁の壁面、河川の護岸部分を調査対象とし、現地にて壁面緑化を目視確認し、次の項目について調査した。

- ・ 所在地名（町丁目まで）
- ・ 建物用途
 - ①個人住宅
 - ②集合住宅
 - ③民間施設
 - ④公共施設
 - ⑤擁壁
 - ⑥河川護岸
 - ⑦その他（上記項目以外の用途）
- ・ 緑化延長（m）
- ・ 緑化面積（m²）
- ・ 主要構成樹種
- ・ 緑化面積は支柱等の面積ではなく、実際に緑化されている面積とする。なお、緑化最小面積は10 m²とする。
- ・ 植栽密度が50%以下のものは調査対象としない。
- ・ ネット上のヘチマ・ニガウリ・アサガオ等の季節的なものは調査対象外とする。

8-2 壁面緑化現況

1) 地区別の壁面緑化状況

- 区全域の壁面緑化は 107 箇所、4,424 m²であった。
- 箇所数では大崎地区の 41 箇所が最も多い。
- 緑化面積では大崎地区の 1,891 m²が最も大きい。

地区別の壁面緑化の状況を表 8-1、壁面緑化分布図を図 8-1 に示す。
壁面緑化は区全体では 107 箇所、緑化面積 4,424 m²が確認できた。
壁面緑化箇所、緑化面積ともに最も多いのが大崎地区で 41 箇所、1,891 m²であった。

表 8-1 地区別の壁面緑化の状況

地区	箇所	面積(m ²)
品川地区	17	552
大崎地区	41	1,891
大井地区	17	564
荏原地区	27	519
八潮地区	5	898
合計	107	4,424

2) 建物用途別の壁面緑化状況

建物用途別の壁面緑化の状況を表 8-2 に示す。

最も壁面緑化が多い建物用途は民間施設で 32 箇所、1,981 m²であった。
次いで集合住宅が 28 箇所、796 m²、個人住宅が 18 箇所、616 m²であった。
なお、その他は、未利用地となった箇所が 1 箇所、30 m²であった。

表 8-2 建物用途別の壁面緑化の状況

建物用途	箇所	面積(m ²)
個人住宅	18	616
集合住宅	28	796
民間施設	32	1,981
公共施設	5	173
擁壁	5	110
河川護岸	18	718
その他	1	30
合計	107	4,424

3) 樹種別の壁面緑化状況

樹種別の状況を表 8-3 に示す。

壁面緑化で最も多い樹種はツタの 71 箇所、2,829 m²で、次いで混植が 16 箇所、963 m²であった。その他は、バラ、トケイソウなど 9 種で 438 m²であった。

表 8-3 樹種別の壁面緑化の状況

樹種	箇所	面積(m ²)
ツタ	71	2,829
ジャスミン類	2	35
テイカカズラ	5	99
バラ	1	18
混植	16	963
その他	12	480
合計	107	4,424

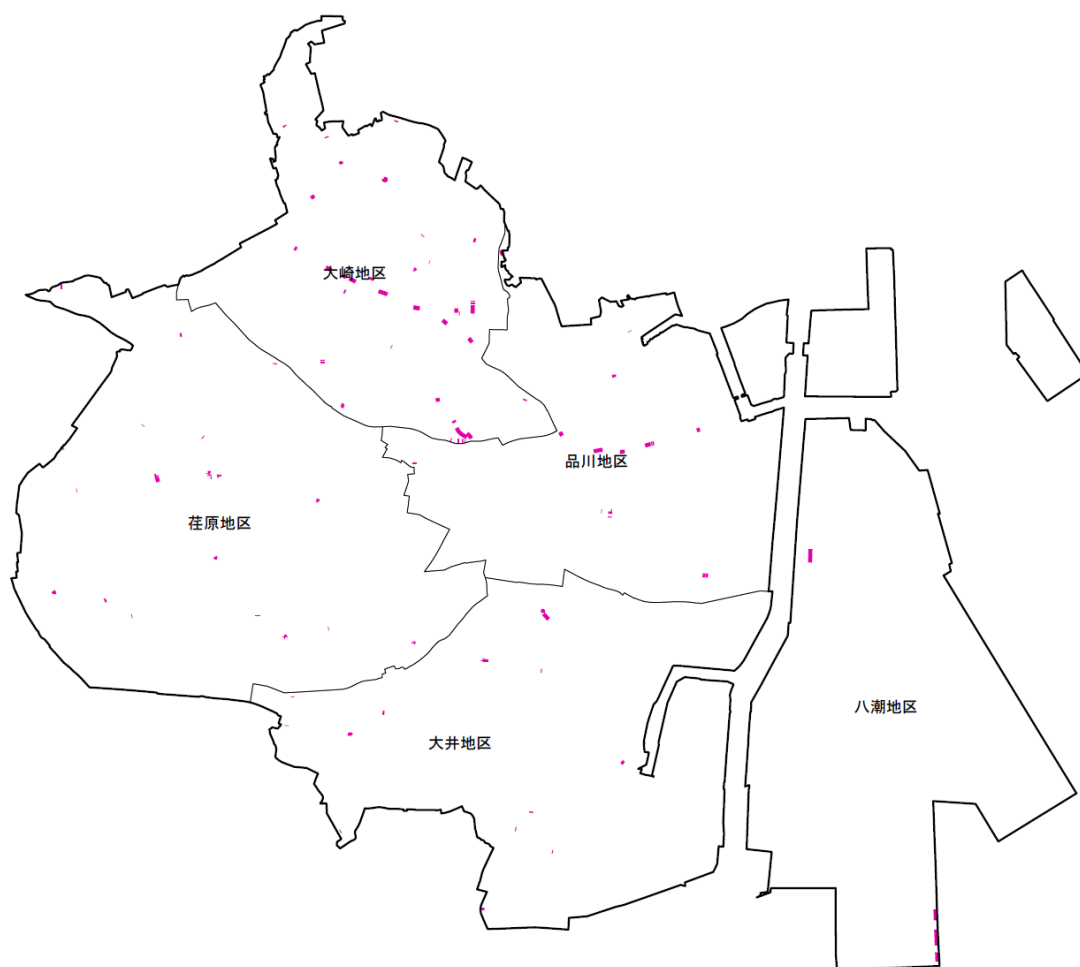


図 8-1 壁面緑化分布図

4) 壁面緑化の経年変化

- 令和元年度調査との経年変化では、51 箇所、6,719 m²減少した。
- 地区別では、八潮地区が増加（4 箇所、778 m²）した。一方、大崎地区で大きく減少（51 箇所、6,889 m²）した。
- 建物用途別の緑化面積では、「集合住宅」が 345 m²で最も増加し、「河川護岸」が 6,080 m²で最も減少した。

地区別の壁面緑化の変化状況を表 8-4、建物用途別の経年変化を表 8-5 に示す。なお、「河川護岸」の箇所数については平成 21 年度調査以来、地区ごとに 1 箇所とし、本調査では壁面緑化のまとまりごとに 1 箇所としていることを踏襲して実施した。

区全体の経年変化では 51 箇所、6,719 m²減少となった。地区別では、八潮地区が 4 箇所、778 m²増加した以外は、すべての地区で面積が減少し、特に大崎地区では 51 箇所、6,889 m²と大きく減少した。なお、品川、荏原両地区では壁面緑化の箇所数はわずかに増加しているものの、面積は減少しており、同地区における壁面緑化の縮小化が確認される。

建物用途別の経年変化では、「集合住宅」が 9 箇所、345 m²で最も増加し、「その他」、「擁壁」、「民間施設」でも微増となったが、「河川護岸」、「公共施設」、「個人住宅」で大きく減少した。特に、「河川護岸」では 48 箇所、6,080 m²と減少幅も大きい。これは、目黒川、特に大崎地区における「河川護岸」の大規模な伐採によるものである。

表 8-4 地区別の壁面緑化の経年変化

地区	令和元年度調査		令和6年度調査		変化	
	箇所	面積(m ²)	箇所	面積(m ²)	箇所	面積(m ²)
品川地区	14	621	17	552	3	-69
大崎地区	92	8,780	41	1,891	-51	-6,889
大井地区	27	1,041	17	564	-10	-477
荏原地区	24	581	27	519	3	-62
八潮地区	1	120	5	898	4	778
合計	158	11,143	107	4,424	-51	-6,719

表 8-5 建物用途別の壁面緑化の経年変化

建物用途	令和元年度調査		令和6年度調査		変化	
	箇所	面積(m ²)	箇所	面積(m ²)	箇所	面積(m ²)
個人住宅	23	859	18	616	-5	-243
集合住宅	19	451	28	796	9	345
民間施設	35	1,975	32	1,981	-3	6
公共施設	11	975	5	173	-6	-802
擁壁	4	85	5	110	1	25
河川護岸	66	6,798	18	718	-48	-6,080
その他	0	0	1	30	1	30
合計	158	11,143	107	4,424	-51	-6,719

第9章 まちづくり事業の緑化状況調査

9-1 調査の方法

本区では、まちづくり事業による主要駅周辺の拠点整備や密集住宅市街地における安全な市街地整備、交通利便性の向上等に努めてきた。近年は、次世代の社会変化へ対応するため、みどりや水辺など多様な機能の柔軟な活用、まちの安全性や快適性の向上等、新たな視点を取り入れた、まちづくりに着手している。

そこで、まちづくり事業による緑化状況の変化を把握するため、事業が完了またはほぼ完了しているまちづくり事業 26 箇所、地区計画 34 地区を対象として、令和 6 年度、令和元年度、平成 26 年度の緑被データを用いて、緑被の変化状況の調査を行った。

調査対象の事業を表 9-1、調査対象の地区計画地区を表 9-2 に示す。

表 9-1 調査対象のまちづくり事業

番号	分類	事業名	規模(ha)
1	拠点整備	品川シーサイド駅周辺(東品川四丁目地区)	13.9
2	拠点整備	大崎駅東口第1地区(大崎ニューシティ)	3.0
3	拠点整備	大崎駅東口第2地区(ゲートシティ大崎)	5.9
4	拠点整備	東五反田二丁目第1地区(オーバルコート大崎)	1.9
5	拠点整備	大崎駅東口第3地区(アートヴィレッジ大崎)	2.5
6	拠点整備	東五反田二丁目第2地区(東京サザンガーデン)	1.8
7	拠点整備	北品川五丁目第1地区(パークシティ大崎)	3.6
8	拠点整備	東五反田二丁目第3地区	1.6
9	拠点整備	大崎駅西口E東地区(ThinkPark)	2.4
10	拠点整備	大崎駅西口中地区(大崎ウエストシティタワーズ)	1.8
11	拠点整備	大崎駅西口南地区(大崎ウィズシティ)	1.15
12	拠点整備	大崎駅西口F南地区	0.6
13	拠点整備	西品川一丁目地区	3.9
14	拠点整備	目黒駅前地区(Aゾーン)	1.6
15	拠点整備	目黒駅前地区(Bゾーン)	0.7
16	拠点整備	大井一丁目南第1地区(シティタワー大井町)	0.8
17	拠点整備	大井町駅西口D-1地区(K-1ビル)	0.46
18	拠点整備	大井町西地区(プリリア大井町ラヴィアンタワー)	0.4
19	拠点整備	大井町駅東口第一地区(きゅりあん)	1.2
20	拠点整備	西大井一丁目地区(コア・スターレ西大井)	1.1
21	拠点整備	西大井駅前南地区(Jタワー西大井)	0.8
22	拠点整備	戸越五丁目19番地区	0.3
23	拠点整備	武蔵小山パルム駅前地区	0.9
24	拠点整備	武蔵小山駅前通り地区	0.7
25	安全な市街地形成	荏原町駅前地区防災街区整備事業(旗の台・中延地区)	0.1
26	安全な市街地形成	中延二丁目旧同潤会地区防災街区整備事業	0.7

表 9-2 調査対象の地区計画地区

番号	分類	事業名	規模(ha)
27	地区計画	東品川二丁目地区	20.0
28	地区計画	臨海副都心青海地区	117.0
29	地区計画	臨海副都心台場地区	71.0
30	地区計画	大崎駅東口第2地区	6.1
31	地区計画	品川駅東口地区	16.2
32	地区計画	西大井駅周辺地区	1.3
33	地区計画	西五反田三丁目地区	9.2
34	地区計画	東五反田地区	4.7
35	地区計画	東品川四丁目地区	13.9
36	地区計画	戸越一丁目地区	15.0
37	地区計画	大崎駅東口第3地区	4.8
38	地区計画	大崎駅西口地区	9.1
39	地区計画	東品川五丁目地区	6.7
40	地区計画	武蔵小山駅東地区	4.0
41	地区計画	東五反田二丁目地区	3.1
42	地区計画	品川区中原街道地区	9.6
43	地区計画	小山台一丁目地区	10.9
44	地区計画	北品川五丁目地区	5.4
45	地区計画	旧東海道南品川三丁目地区	2.0
46	地区計画	八潮五丁目地区	40.8
47	地区計画	滝王子通り地区	5.5
48	地区計画	目黒駅前地区	2.3
49	地区計画	広町一丁目周辺地区	17.2
50	地区計画	西品川一丁目地区	3.9
51	地区計画	大井一丁目南地区	1.7
52	地区計画	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	63.6
53	地区計画	戸越・豊町地区	54.3
54	地区計画	戸越六丁目東地区	4.5
55	地区計画	東五反田二丁目第3地区	2.1
56	地区計画	東五反田二丁目北地区	3.5
57	地区計画	広町地区	7.1
58	地区計画	武蔵小山賑わい軸地区	3.1
59	地区計画	東中延一・二丁目、中延二・三丁目地区	29.4
60	地区計画	西五反田七丁目地区	3.2

9-2 まちづくり事業の緑化状況

1) まちづくり事業の緑被変化

調査対象のまちづくり事業の位置図を図 9-1、平成 26 年度調査の緑被状況を表 9-3、令和元年度調査の緑被状況を表 9-4、令和 6 年度調査の緑被状況を表 9-5 に示し、令和 6 年度調査と令和元年度調査および平成 26 年度調査との比較を表 9-6 に示す。

まちづくり事業全体の緑被率、緑被率 20%以上の事業箇所をみると、平成 26 年度調査では 15.4%、8 箇所であった。同様に、令和元年度調査では 21.2%、14 箇所、令和 6 年度調査では、23.9%、17 箇所となっており、緑被率、緑被率 20%以上の事業箇所ともに増加傾向にある。

令和 6 年度調査のまちづくり事業全体の緑被面積は、令和元年度調査から約 1.3ha 増加、平成 26 年度調査から約 4.3ha 増加している。

平成 26 年度調査から 10 年間の緑被面積の変化を個別にみると、樹木が約 3.4ha、草地在約 0.1ha、屋上緑化が約 0.8ha と、すべてで緑被面積は増加しており、特に樹木の面積増加が大きい。

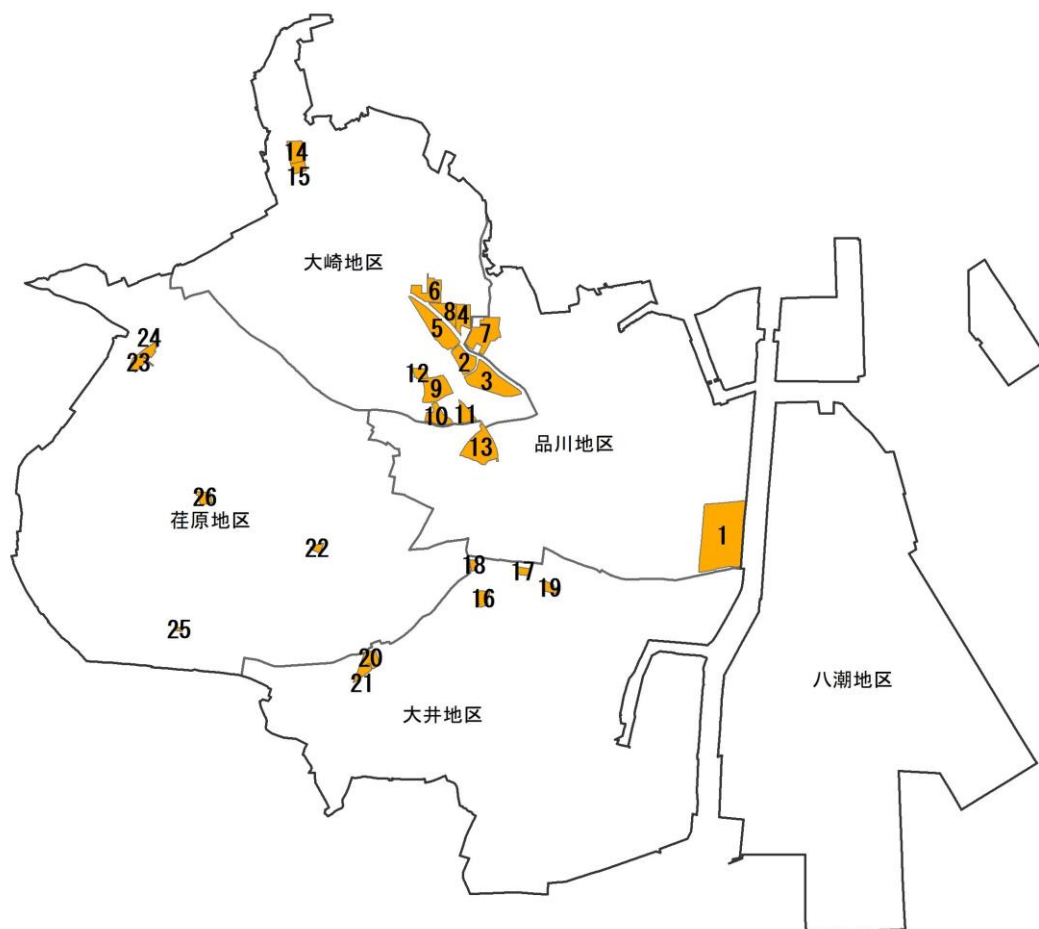


図 9-1 調査対象まちづくり事業位置図

表 9-3 平成 26 年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
1	品川シーサイド駅周辺 (東品川四丁目地区)	129,252	14,799	1,286	3,038	19,123	14.8
2	大崎駅東口第1地区 (大崎ニューシティ)	19,291	1,980	16	1,754	3,750	19.4
3	大崎駅東口第2地区 (ゲートシティ大崎)	44,278	10,509	412	358	11,279	25.5
4	東五反田二丁目第1地区 (オーバルコート大崎)	16,249	3,192	122	0	3,314	20.4
5	大崎駅東口第3地区 (アートヴィレッジ大崎)	38,279	8,071	785	3,003	11,860	31.0
6	東五反田二丁目第2地区 (東京サザンガーデン)	21,765	3,752	236	862	4,850	22.3
7	北品川五丁目第1地区 (パークシティ大崎)	34,885	303	40	7	349	1.0
8	東五反田二丁目第3地区	15,984	664	7	31	703	4.4
9	大崎駅西口E東地区 (ThinkPark)	27,331	7,077	295	537	7,909	28.9
10	大崎駅西口中地区 (大崎ウエストシティタワーズ)	14,707	1,969	32	1,494	3,496	23.8
11	大崎駅西口南地区 (大崎ウィズシティ)	9,446	909	71	366	1,346	14.2
12	大崎駅西口F南地区	6,278	637	192	6	835	13.3
13	西品川一丁目地区	40,192	1,113	608	6	1,727	4.3
14	目黒駅前地区(Aゾーン)	15,163	138	249	0	386	2.5
15	目黒駅前地区(Bゾーン)	6,807	107	124	0	230	3.4
16	大井一丁目南第1地区 (シティタワー大井町)	7,452	503	84	26	613	8.2
17	大井町駅西口D-1地区 (K-1ビル)	4,606	267	0	0	267	5.8
18	大井町西地区(ブリリア大井町 ラヴィアンタワー)	3,284	274	0	644	917	27.9
19	大井町駅東口第一地区 (きゅりあん)	4,885	125	0	81	206	4.2
20	西大井一丁目地区 (コア・スターレ西大井)	10,771	1,588	44	0	1,632	15.2
21	西大井駅前南地区 (Jタワー西大井)	6,877	1,316	90	313	1,719	25.0
22	戸越五丁目19番地区	3,449	51	30	29	110	3.2
23	武蔵小山パルム駅前地区	8,745	157	0	11	168	1.9
24	武蔵小山駅前通り地区	7,301	342	5	47	394	5.4
25	荏原駅前地区防災街区整備 事業(旗の台・中延地区)	1,043	0	0	0	0	0.0
26	中延二丁目旧同潤会地区防 災街区整備事業	7,141	369	88	0	457	6.4
合計		505,459	60,212	4,815	12,612	77,639	15.4

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

※対象面積は図形面積とする。

表 9-4 令和元年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
1	品川シーサイド駅周辺 (東品川四丁目地区)	129,252	14,624	3,576	4,203	22,404	17.3
2	大崎駅東口第1地区 (大崎ニューシティ)	19,291	2,520	76	1,737	4,333	22.5
3	大崎駅東口第2地区 (ゲートシティ大崎)	44,278	9,721	701	526	10,947	24.7
4	東五反田二丁目第1地区 (オーバルコート大崎)	16,249	3,279	7	0	3,286	20.2
5	大崎駅東口第3地区 (アートヴィレッジ大崎)	38,279	7,446	709	3,488	11,644	30.4
6	東五反田二丁目第2地区 (東京サザンガーデン)	21,765	4,737	78	812	5,627	25.9
7	北品川五丁目第1地区 (パークシティ大崎)	34,885	6,163	725	2,079	8,966	25.7
8	東五反田二丁目第3地区	15,984	673	0	7	679	4.3
9	大崎駅西口E東地区 (ThinkPark)	27,331	7,654	201	710	8,566	31.3
10	大崎駅西口中地区 (大崎ウエストシティタワーズ)	14,707	2,494	71	1,483	4,048	27.5
11	大崎駅西口南地区 (大崎ウィズシティ)	9,446	1,803	121	308	2,232	23.6
12	大崎駅西口F南地区	6,278	613	210	59	882	14.0
13	西品川一丁目地区	40,192	7,524	2,211	931	10,667	26.5
14	目黒駅前地区(Aゾーン)	15,163	2,399	432	361	3,192	21.1
15	目黒駅前地区(Bゾーン)	6,807	1,591	453	0	2,044	30.0
16	大井一丁目南第1地区 (シティタワー大井町)	7,452	972	0	288	1,259	16.9
17	大井町駅西口D-1地区 (K-1ビル)	4,606	149	0	80	229	5.0
18	大井町西地区(ブリリア大井町 ラヴィアンタワー)	3,284	318	0	562	880	26.8
19	大井町駅東口第一地区 (きゅりあん)	4,885	114	0	111	225	4.6
20	西大井一丁目地区 (コア・スターレ西大井)	10,771	1,350	24	3	1,377	12.8
21	西大井駅前南地区 (Jタワー西大井)	6,877	1,252	202	312	1,766	25.7
22	戸越五丁目19番地区	3,449	43	30	30	103	3.0
23	武蔵小山パルム駅前地区	8,745	34	0	691	725	8.3
24	武蔵小山駅前通り地区	7,301	22	0	0	22	0.3
25	荏原駅前地区防災街区整備 事業(旗の台・中延地区)	1,043	13	8	0	21	2.0
26	中延二丁目旧同潤会地区防 災街区整備事業	7,141	840	261	84	1,185	16.6
合計		505,459	78,350	10,095	18,864	107,309	21.2

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-5 令和 6 年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
1	品川シーサイド駅周辺 (東品川四丁目地区)	129,252	18,047	2,087	4,669	24,802	19.2
2	大崎駅東口第1地区 (大崎ニューシティ)	19,291	2,840	0	1,809	4,649	24.1
3	大崎駅東口第2地区 (ゲートシティ大崎)	44,278	10,068	995	424	11,488	25.9
4	東五反田二丁目第1地区 (オーバルコート大崎)	16,249	3,547	0	3	3,549	21.8
5	大崎駅東口第3地区 (アートヴィレッジ大崎)	38,279	9,043	451	3,341	12,835	33.5
6	東五反田二丁目第2地区 (東京サザンガーデン)	21,765	5,508	44	811	6,362	29.2
7	北品川五丁目第1地区 (パークシティ大崎)	34,885	7,190	224	3,346	10,760	30.8
8	東五反田二丁目第3地区	15,984	2	0	0	2	0.0
9	大崎駅西口E東地区 (ThinkPark)	27,331	7,764	239	707	8,710	31.9
10	大崎駅西口中地区 (大崎ウエストシティタワーズ)	14,707	2,481	15	1,464	3,959	26.9
11	大崎駅西口南地区 (大崎ウィズシティ)	9,446	1,963	134	266	2,363	25.0
12	大崎駅西口F南地区	6,278	192	23	0	215	3.4
13	西品川一丁目地区	40,192	10,872	435	1,014	12,321	30.7
14	目黒駅前地区(Aゾーン)	15,163	3,214	268	379	3,862	25.5
15	目黒駅前地区(Bゾーン)	6,807	1,962	299	0	2,260	33.2
16	大井一丁目南第1地区 (シティタワー大井町)	7,452	2,158	0	300	2,458	33.0
17	大井町駅西口D-1地区 (K-1ビル)	4,606	204	0	0	204	4.4
18	大井町西地区(ブリリア大井町 ラヴィアンタワー)	3,284	349	0	552	901	27.4
19	大井町駅東口第一地区 (きゅりあん)	4,885	64	24	85	173	3.6
20	西大井一丁目地区 (コア・スターレ西大井)	10,771	1,662	0	0	1,662	15.4
21	西大井駅前南地区 (Jタワー西大井)	6,877	1,577	173	13	1,762	25.6
22	戸越五丁目19番地区	3,449	293	0	234	527	15.3
23	武蔵小山パルム駅前地区	8,745	993	21	931	1,945	22.2
24	武蔵小山駅前通り地区	7,301	957	23	443	1,424	19.5
25	荏原駅前地区防災街区整備 事業(旗の台・中延地区)	1,043	38	0	0	38	3.7
26	中延二丁目旧同潤会地区防 災街区整備事業	7,141	1,185	192	107	1,484	20.8
合計		505,459	94,171	5,647	20,897	120,716	23.9

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-6 まちづくり事業の緑被変化

番号	事業名	令和元年度と令和6年の比較				平成26年度と令和6年の比較			
		樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)
1	品川シーサイド駅周辺 (東品川四丁目地区)	3,422	-1,489	466	2,399	3,248	801	1,630	5,679
2	大崎駅東口第1地区 (大崎ニューシティ)	320	-76	72	316	860	-16	55	899
3	大崎駅東口第2地区 (ゲートシティ大崎)	348	294	-102	540	-441	584	66	209
4	東五反田二丁目第1地区 (オーバルコート大崎)	267	-7	3	263	355	-122	3	235
5	大崎駅東口第3地区 (アートヴィレッジ大崎)	1,597	-258	-147	1,191	972	-334	337	975
6	東五反田二丁目第2地区 (東京サザンガーデン)	770	-34	-2	734	1,755	-192	-51	1,512
7	北品川五丁目第1地区 (パークシティ大崎)	1,027	-501	1,267	1,793	6,887	184	3,339	10,410
8	東五反田二丁目第3地区	-671	0	-7	-678	-663	-7	-31	-701
9	大崎駅西口E東地区 (ThinkPark)	109	38	-3	144	687	-56	170	801
10	大崎駅西口中地区 (大崎ウエストシティタワーズ)	-14	-56	-19	-89	511	-17	-30	464
11	大崎駅西口南地区 (大崎ウィズシティ)	160	13	-42	132	1,054	63	-100	1,018
12	大崎駅西口F南地区	-421	-186	-59	-667	-445	-169	-6	-620
13	西品川一丁目地区	3,347	-1,776	83	1,654	9,758	-173	1,009	10,594
14	目黒駅前地区(Aゾーン)	815	-163	18	670	3,077	20	379	3,475
14	目黒駅前地区(Bゾーン)	371	-155	0	216	1,855	175	0	2,030
16	大井一丁目南第1地区 (シティタワー大井町)	1,186	0	13	1,198	1,655	-84	274	1,845
17	大井町駅西口D-1地区 (K-1ビル)	54	0	-80	-26	-64	0	0	-64
18	大井町西地区(ブリリア大井町ラ ヴィアンタワー)	31	0	-10	22	75	0	-91	-16
19	大井町駅東口第一地区 (きゅりあん)	-50	24	-25	-51	-61	24	5	-32
20	西大井一丁目地区 (コア・スターレ西大井)	313	-24	-3	286	75	-44	0	31
21	西大井駅前南地区 (Jタワー西大井)	325	-29	-299	-3	261	82	-300	43
22	戸越五丁目19番地区	250	-30	204	424	242	-30	205	417
23	武蔵小山パルム駅前地区	959	20	240	1,220	836	21	920	1,776
24	武蔵小山駅前通り地区	935	23	443	1,401	615	19	396	1,030
25	荏原町駅前地区防災街区整備 事業(旗の台・中延地区)	25	-8	0	18	38	0	0	38
26	中延二丁目旧同潤会地区防災 街区整備事業	344	-69	23	299	816	105	107	1,027
合計		15,821	-4,448	2,033	13,407	33,959	832	8,286	43,077

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

2) 地区計画地区の緑被変化

調査対象の地区計画地区の位置図を図 9-2、平成 26 年度調査の緑被状況を表 9-7、令和元年度調査の緑被状況を表 9-8、令和 6 年度調査の緑被状況を表 9-9 に示し、令和 6 年度調査と令和元年度調査および平成 26 年度調査との比較を表 9-10 に示す。

平成 26 年度調査の地区計画地区全体の緑被率は 11.4%、緑被率が 20% 以上は 5 地区であった。同様に令和元年度調査では、全体緑被率 11.5%、緑被率 20% 以上は 9 地区、令和 6 年度調査では、全体緑被率 12.2%、緑被率 20% 以上は 12 地区となっており、緑被面積、緑被率はともに増加傾向にある。

地区計画地区全体の緑被面積の変化をみると、令和元年度調査から約 4.0ha 増加、平成 26 年度調査から約 4.8ha 増加している。

平成 26 年度調査から 10 年間の緑被面積の変化を個別にみると、樹木は約 4.5ha、屋上緑化は約 0.8ha 増加している。一方で、草地のみが約 0.5ha 減少している。

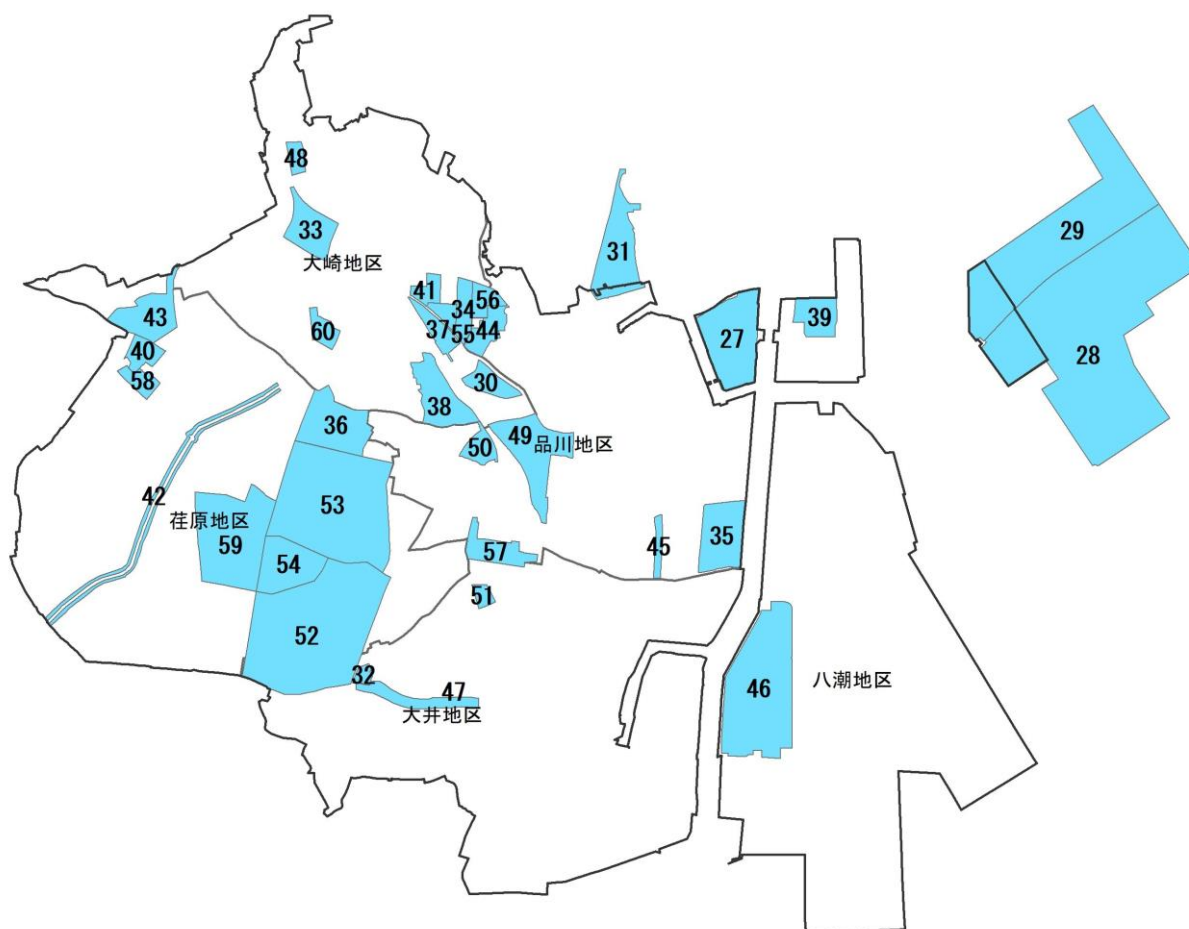


図 9-2 調査対象地区計画地区位置図

表 9-7 平成 26 年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
27	東品川二丁目地区	208,901	25,149	3,419	286	28,855	13.8
28	臨海副都心青海地区	1,231,436	33,974	17,117	0	51,091	4.1
29	臨海副都心台場地区	642,966	35,387	25,108	0	60,495	9.4
30	大崎駅東口第2地区	48,278	11,165	412	358	11,935	24.7
31	品川駅東口地区	162,220	4,283	635	647	5,565	3.4
32	西大井駅周辺地区	12,765	2,016	122	316	2,454	19.2
33	西五反田三丁目地区	91,576	12,832	4,890	1,164	18,886	20.6
34	東五反田地区	42,724	8,051	153	125	8,329	19.5
35	東品川四丁目地区	130,419	14,827	1,286	3,038	19,151	14.7
36	戸越一丁目地区	152,055	11,867	1,400	990	14,257	9.4
37	大崎駅東口第3地区	42,324	8,127	841	3,003	11,971	28.3
38	大崎駅西口地区	115,063	18,444	903	3,732	23,079	20.1
39	東品川五丁目地区	69,399	5,465	786	1,126	7,377	10.6
40	武蔵小山駅東地区	39,956	2,402	79	1,028	3,509	8.8
41	東五反田二丁目地区	29,948	4,249	237	928	5,414	18.1
42	品川区中原街道地区	95,960	6,935	357	453	7,744	8.1
43	小山台一丁目防災街区整備地区	111,223	9,689	623	343	10,655	9.6
44	北品川五丁目地区	53,846	2,468	101	7	2,576	4.8
45	旧東海道南品川三丁目地区	20,298	1,051	43	98	1,192	5.9
46	八潮五丁目地区	410,320	134,722	12,960	960	148,641	36.2
47	滝王子通り地区	61,710	3,966	795	575	5,336	8.6
48	目黒駅前地区	22,104	283	376	0	659	3.0
49	広町一丁目周辺地区	170,225	15,280	7,286	102	22,667	13.3
50	西品川一丁目地区	40,293	1,113	608	6	1,727	4.3
51	大井一丁目南地区	16,625	1,317	116	119	1,551	9.3
52	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	635,580	52,935	7,522	3,707	64,165	10.1
53	戸越・豊町地区	543,262	68,657	7,118	1,511	77,287	14.2
54	戸越六丁目地区	129,964	7,123	1,691	694	9,508	7.3
55	東五反田二丁目第3地区	22,202	2,100	84	31	2,215	10.0
56	東五反田二丁目北地区	35,214	2,353	288	263	2,903	8.2
57	広町地区	70,897	4,032	1,768	827	6,627	9.3
58	武蔵小山賑わい軸地区	30,917	539	8	193	740	2.4
59	東中延一・二丁目、中延二・三丁目地区	293,344	18,591	1,728	1,263	21,582	7.4
60	西五反田七丁目地区	32,506	1,720	89	265	2,075	6.4
合計		5,816,521	533,111	100,948	28,158	662,218	11.4

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-8 令和元年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
27	東品川二丁目地区	208,901	24,429	4,470	782	29,681	14.2
28	臨海副都心青海地区	1,231,436	32,933	21,537	83	54,553	4.4
29	臨海副都心台場地区	642,966	33,712	18,059	0	51,771	8.1
30	大崎駅東口第2地区	48,278	10,111	701	526	11,338	23.5
31	品川駅東口地区	162,220	3,961	1,285	378	5,623	3.5
32	西大井駅周辺地区	12,765	1,877	202	312	2,391	18.7
33	西五反田三丁目地区	91,576	14,019	2,448	1,209	17,676	19.3
34	東五反田地区	42,724	8,884	9	192	9,085	21.3
35	東品川四丁目地区	130,419	14,684	3,576	4,203	22,463	17.2
36	戸越一丁目地区	152,055	10,512	1,029	759	12,300	8.1
37	大崎駅東口第3地区	42,324	7,564	747	3,488	11,799	27.9
38	大崎駅西口地区	115,063	22,341	920	4,228	27,488	23.9
39	東品川五丁目地区	69,399	5,021	849	1,135	7,005	10.1
40	武蔵小山駅東地区	39,956	2,048	199	1,542	3,789	9.5
41	東五反田二丁目地区	29,948	5,220	78	822	6,119	20.4
42	品川区中原街道地区	95,960	5,564	279	293	6,135	6.4
43	小山台一丁目防災街区整備地区	111,223	9,364	565	201	10,129	9.1
44	北品川五丁目地区	53,846	8,820	855	2,856	12,532	23.3
45	旧東海道南品川三丁目地区	20,298	910	83	78	1,071	5.3
46	八潮五丁目地区	410,320	133,163	15,911	1,121	150,196	36.6
47	滝王子通り地区	61,710	3,263	739	312	4,314	7.0
48	目黒駅前地区	22,104	4,054	885	361	5,300	24.0
49	広町一丁目周辺地区	170,225	14,866	8,512	1,165	24,544	14.4
50	西品川一丁目地区	40,293	7,528	2,211	931	10,671	26.5
51	大井一丁目南地区	16,625	1,801	0	349	2,151	12.9
52	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	635,580	47,610	5,360	2,941	55,912	8.8
53	戸越・豊町地区	543,262	65,399	8,236	1,411	75,046	13.8
54	戸越六丁目地区	129,964	6,752	1,211	685	8,648	6.7
55	東五反田二丁目第3地区	22,202	2,173	0	7	2,180	9.8
56	東五反田二丁目北地区	35,214	1,660	173	4	1,837	5.2
57	広町地区	70,897	2,673	1,219	926	4,818	6.8
58	武蔵小山賑わい軸地区	30,917	620	33	161	814	2.6
59	東中延一・二丁目、中延二・三丁目地区	293,344	16,577	1,752	954	19,282	6.6
60	西五反田七丁目地区	32,506	1,596	99	226	1,921	5.9
合計		5,816,521	531,707	104,233	34,640	670,580	11.5

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

※対象面積は図形面積とする。

表 9-9 令和 6 年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
27	東品川二丁目地区	208,901	24,590	4,423	694	29,707	14.2
28	臨海副都心青海地区	1,231,436	38,743	17,494	5	56,241	4.6
29	臨海副都心台場地区	642,966	38,136	24,151	0	62,287	9.7
30	大崎駅東口第2地区	48,278	10,716	995	424	12,135	25.1
31	品川駅東口地区	162,220	3,738	759	490	4,987	3.1
32	西大井駅周辺地区	12,765	2,245	173	171	2,589	20.3
33	西五反田三丁目地区	91,576	16,318	1,907	1,686	19,912	21.7
34	東五反田地区	42,724	9,722	0	193	9,915	23.2
35	東品川四丁目地区	130,419	18,126	2,087	4,669	24,882	19.1
36	戸越一丁目地区	152,055	11,391	1,016	758	13,166	8.7
37	大崎駅東口第3地区	42,324	9,201	514	3,341	13,055	30.8
38	大崎駅西口地区	115,063	22,161	655	4,145	26,961	23.4
39	東品川五丁目地区	69,399	5,832	382	1,129	7,343	10.6
40	武蔵小山駅東地区	39,956	4,365	81	2,249	6,695	16.8
41	東五反田二丁目地区	29,948	6,132	44	812	6,988	23.3
42	品川区中原街道地区	95,960	6,318	176	333	6,827	7.1
43	小山台一丁目防災街区整備地区	111,223	10,200	311	211	10,722	9.6
44	北品川五丁目地区	53,846	10,495	233	4,249	14,977	27.8
45	旧東海道南品川三丁目地区	20,298	945	91	14	1,050	5.2
46	八潮五丁目地区	410,320	139,040	16,818	1,192	157,051	38.3
47	滝王子通り地区	61,710	3,573	269	218	4,060	6.6
48	目黒駅前地区	22,104	5,232	567	379	6,178	27.9
49	広町一丁目周辺地区	170,225	15,997	7,403	1,052	24,452	14.4
50	西品川一丁目地区	40,293	10,888	435	1,014	12,337	30.6
51	大井一丁目南地区	16,625	3,248	37	329	3,613	21.7
52	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	635,580	49,543	4,796	2,401	56,740	8.9
53	戸越・豊町地区	543,262	67,570	7,058	1,407	76,035	14.0
54	戸越六丁目地区	129,964	6,708	1,370	536	8,615	6.6
55	東五反田二丁目第3地区	22,202	1,530	10	0	1,540	6.9
56	東五反田二丁目北地区	35,214	4,360	60	13	4,433	12.6
57	広町地区	70,897	1,217	92	735	2,044	2.9
58	武蔵小山脈わい軸地区	30,917	792	0	165	957	3.1
59	東中延一・二丁目、中延二・三丁目地区	293,344	17,081	1,670	715	19,466	6.6
60	西五反田七丁目地区	32,506	1,858	0	327	2,184	6.7
合計		5,816,521	578,011	96,078	36,057	710,146	12.2

※面積は小数第 1 位、緑被率は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

※対象面積は図形面積とする。

表 9-10 地区計画地区の緑被変化

番号	事業名	令和元年度と令和6年度の比較				平成26年度と令和6年度の比較			
		樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)
27	東品川二丁目地区	161	-47	-88	26	-558	1,004	407	853
28	臨海副都心青海地区	5,810	-4,043	-78	1,688	4,769	376	5	5,150
29	臨海副都心台場地区	4,424	6,092	0	10,516	2,749	-956	0	1,792
30	大崎駅東口第2地区	605	294	-102	797	-449	584	66	201
31	品川駅東口地区	-223	-525	112	-636	-545	124	-158	-578
32	西大井駅周辺地区	368	-29	-141	198	230	51	-145	135
33	西五反田三丁目地区	2,299	-541	477	2,236	3,486	-2,983	522	1,026
34	東五反田地区	838	-9	2	830	1,670	-153	69	1,586
35	東品川四丁目地区	3,442	-1,489	466	2,418	3,299	801	1,630	5,730
36	戸越一丁目地区	880	-13	-1	866	-476	-383	-232	-1,091
37	大崎駅東口第3地区	1,637	-233	-147	1,256	1,074	-327	337	1,084
38	大崎駅西口地区	-180	-265	-82	-527	3,717	-248	414	3,883
39	東品川五丁目地区	810	-467	-5	338	366	-404	4	-34
40	武蔵小山駅東地区	2,317	-119	707	2,905	1,963	1	1,222	3,186
41	東五反田二丁目地区	913	-34	-10	869	1,883	-194	-115	1,574
42	品川区中原街道地区	754	-103	40	692	-617	-181	-119	-917
43	小山台一丁目防災街区整備地区	836	-254	11	593	511	-311	-132	68
44	北品川五丁目地区	1,674	-622	1,393	2,445	8,027	132	4,242	12,401
45	旧東海道南品川三丁目地区	35	8	-64	-21	-106	48	-83	-142
46	八潮五丁目地区	5,877	907	71	6,855	4,319	3,859	232	8,410
47	滝王子通り地区	310	-470	-93	-253	-392	-526	-357	-1,275
48	目黒駅前地区	1,178	-318	17	878	4,949	191	379	5,519
49	広町一丁目周辺地区	1,131	-1,109	-114	-91	717	118	950	1,785
50	西品川一丁目地区	3,360	-1,776	83	1,667	9,775	-173	1,009	10,610
51	大井一丁目南地区	1,447	37	-21	1,463	1,931	-79	210	2,062
52	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	1,933	-564	-540	829	-3,392	-2,726	-1,306	-7,424
53	戸越・豊町地区	2,172	-1,179	-4	989	-1,087	-61	-104	-1,252
54	戸越六丁目地区	-44	159	-149	-34	-415	-321	-158	-894
55	東五反田二丁目第3地区	-643	10	-7	-640	-569	-74	-31	-674
56	東五反田二丁目北地区	2,700	-113	9	2,596	2,007	-228	-249	1,530
57	広町地区	-1,456	-1,127	-191	-2,774	-2,815	-1,676	-92	-4,583
58	武蔵小山賑わい軸地区	172	-33	4	142	252	-8	-28	217
59	東中延一・二丁目、中延二・三丁目地区	504	-82	-239	184	-1,510	-57	-548	-2,115
60	西五反田七丁目地区	262	-99	100	264	137	-89	61	109
合計		46,304	-8,155	1,417	39,566	44,900	-4,870	7,899	47,929

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。